

台東区

医療に関する調査

《 報告書 》

平成30年3月

目次

I	調査実施の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の方法等	1
3	調査対象者及び調査対象機関の特性	2
4	報告書の見方	2
II	主な調査結果	3
1	身近な医療機関（診療所・病院、歯科診療所、薬局）の現状	3
(1)	かかりつけ医	3
(2)	かかりつけ歯科医	5
(3)	かかりつけ薬剤師・薬局	7
2	在宅療養の現状	9
(1)	区民の在宅療養への意識	9
(2)	診療所・病院における在宅医療	13
(3)	在宅歯科医療	16
(4)	在宅患者訪問薬剤管理指導及び在宅療養管理指導	19
3	医療連携等に関する現状と課題	22
(1)	医療連携の現状	22
(2)	歯科医療連携と口腔ケアの現状	32
(3)	薬局における医療機関の受診勧奨	35
4	区の医療に関する事業への評価と対策	36
(1)	区民の台東区の医療機関に関する情報の入手方法	36
(2)	台東区の医療に関する取り組みの認知度	38
(3)	台東区の医療に関する取り組みへの評価と要望	40

I 調査実施の概要

1 調査の目的

「健康たいとう 21 推進計画（第二次）」（計画期間：平成 25～29 年度）の改定に向け、現行計画の検証と課題を把握し、改定後の計画の基礎資料とすることを目的に実施した。

2 調査の方法等

本調査は、次の 3 種類の調査で実施した。

- ①健康づくりと医療に関する区民意識調査
- ②健康づくりについての児童・生徒アンケート
- ③台東区医療意識調査

各調査の実施概要は次のとおりである。

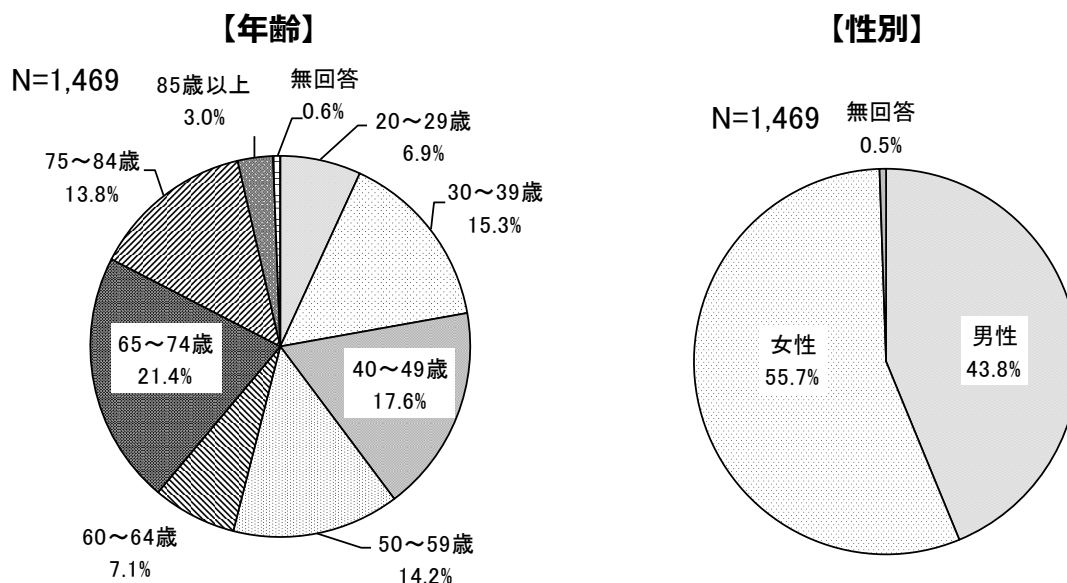
	① 健康づくりと医療に関する区民意識調査
対象者	無作為抽出した 20 歳以上の区民
実施方法	郵送配付、郵送回収
実施期間	平成 29 年 4 月 21 日～5 月 6 日
配付数	3,000 人
回収数	1,469
回収率	49.0%

	② 健康づくりについての児童・生徒アンケート	
対象者	区立小学校 4 年生（19 校）	区立中学校 1 年生（7 校）
実施方法	学校単位で配付・回収	
実施期間	平成 29 年 4 月 20 日～5 月 9 日	
対象者数	1,104 人	734 人
回収数	1,039	711
回収率	94.1%	96.9%

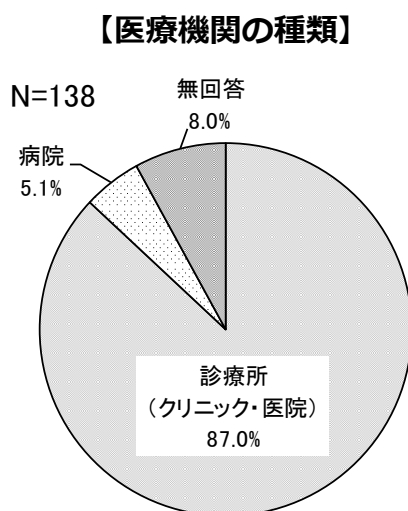
	③ 台東区医療意識調査		
	診療所・病院向け	歯科診療所向け	薬局向け
対象	区内の診療所・病院	区内の歯科診療所	区内の薬局
実施方法	郵送配付、郵送回収・インターネット回答		
実施期間	平成 29 年 4 月 21 日～5 月 6 日		
対象機関数	195 力所	229 力所	137 力所
回収数	138	177	112
回収率	70.8%	77.3%	81.8%

3 調査対象者及び調査対象機関の特性

○健康づくりと医療に関する区民意識調査



○台東区医療意識調査



4 報告書の見方

- (1) 集計は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示しているため、比率(%)の合計が100%にならない場合がある。
- (2) 基数となるべき実数(N)は、設問に対する回答者数である。
- (3) 回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出している。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超える場合がある。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、必要に応じて語句を短縮・簡略化している。
- (5) 図表では、「健康づくりと医療に関する区民意識調査」における設問の結果を【区民】、「健康づくりについての児童・生徒アンケート」における設問の結果を、対象に応じて【小学生】、【中学生】、「台東区医療意識調査」における設問の結果を、対象に応じて【診療所・病院】、【診療所】、【病院】、【歯科診療所】、【薬局】と表記している。

※なお、本報告書は、平成29年10月発行の「健康づくりと医療に関する意識調査 報告書」から、内容を抜粋して作成している。

II 主な調査結果

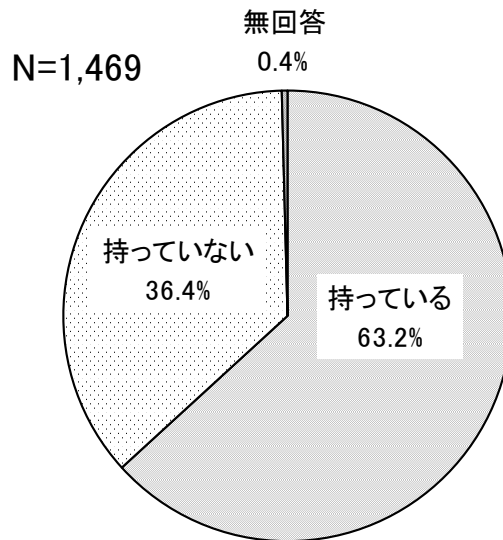
1 身近な医療機関（診療所・病院、歯科診療所、薬局）の現状

(1) かかりつけ医

○かかりつけ医を持っている割合

かかりつけ医を持っている割合は、63.2%であった。〈図表 1-1〉
性別・年代別でみると、男女ともに年代が上がるにつれて「持っている」という回答が多くなる傾向が見られた。〈図表 1-2〉

〈図表 1-1〉 【区民】：かかりつけ医の有無



〈図表 1-2〉 【区民】：かかりつけ医の有無（性別・年代別） (%)

		合計	持っている	持っていない	無回答
男性	全体	(N=641)	60.2	39.3	0.5
	20～29歳	(N=47)	38.3	61.7	0.0
	30～39歳	(N=90)	36.7	63.3	0.0
	40～49歳	(N=110)	47.3	52.7	0.0
	50～59歳	(N=97)	56.7	43.3	0.0
	60～64歳	(N=42)	59.5	40.5	0.0
	65～74歳	(N=163)	75.5	23.3	1.2
	75～84歳	(N=82)	89.0	11.0	0.0
	85歳以上	(N=10)	70.0	20.0	10.0
女性	全体	(N=815)	65.4	34.4	0.2
	20～29歳	(N=54)	50.0	50.0	0.0
	30～39歳	(N=135)	44.4	55.6	0.0
	40～49歳	(N=148)	56.1	43.9	0.0
	50～59歳	(N=112)	59.8	40.2	0.0
	60～64歳	(N=63)	63.5	36.5	0.0
	65～74歳	(N=150)	78.0	22.0	0.0
	75～84歳	(N=120)	90.0	8.3	1.7
	85歳以上	(N=33)	93.9	6.1	0.0

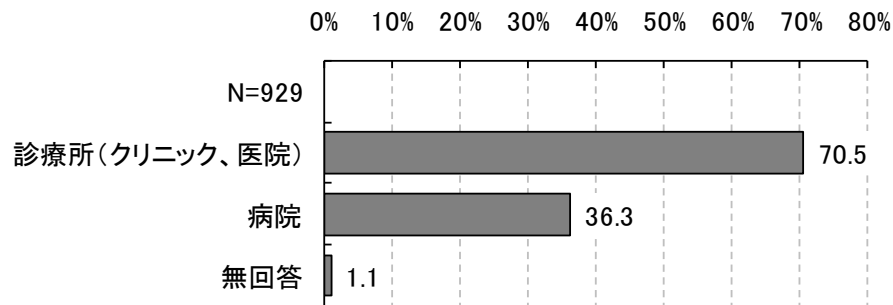
※性別・年齢の設定で無回答のものを除く

■：1位 ■：2位

○かかりつけ医の種別

かかりつけ医を持っていると回答した方にその種別をたずねたところ、「診療所（クリニック、医院）」が70.5%、「病院」が36.3%であった。〈図表 1-3〉

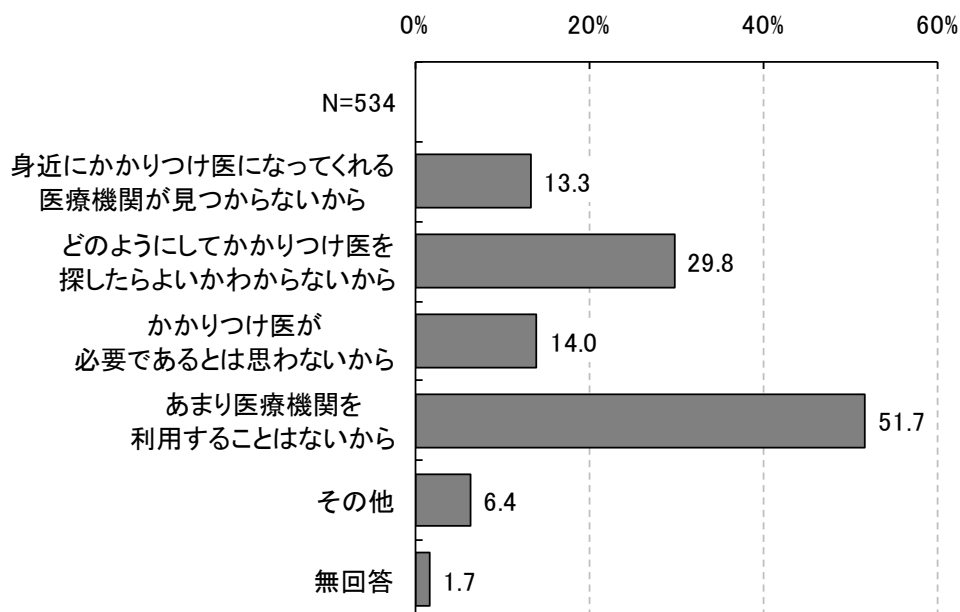
〈図表 1-3〉 【区民】：かかりつけ医の種別【複数回答】



○かかりつけ医を持っていない理由

かかりつけ医を持っていない理由については、「あまり医療機関を利用することはないから」が51.7%と最も多く、次いで「どのようにしてかかりつけ医を探したらよいかわからないから」が29.8%、「かかりつけ医が必要であるとは思わないから」が14.0%であった。〈図表 1-4〉

〈図表 1-4〉 【区民】：かかりつけ医を持っていない理由【複数回答】

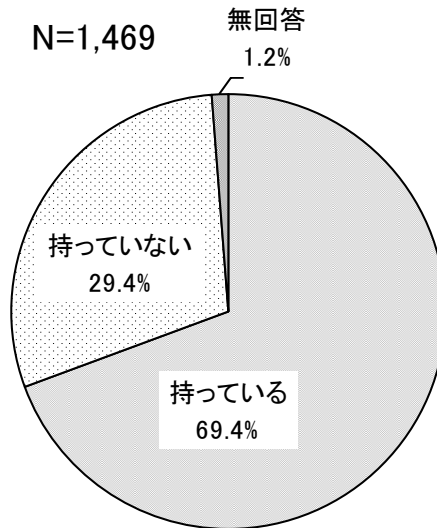


(2) かかりつけ歯科医

○かかりつけ歯科医を持っている割合

かかりつけ歯科医を持っている割合は、69.4%であった。〈図表 1-5〉
性別・年代別でみると、男性の39歳以下で「持っていない」が多くなっている。
〈図表 1-6〉

〈図表 1-5〉 【区民】：かかりつけ歯科医の有無



〈図表 1-6〉 【区民】：かかりつけ歯科医の有無（性別・年代別）

(%)

		合計	持っている	持っていない	無回答
男性	全体	(N=641)	62.4	36.2	1.4
	20～29歳	(N=47)	38.3	61.7	0.0
	30～39歳	(N=90)	45.6	53.3	1.1
	40～49歳	(N=110)	53.6	46.4	0.0
	50～59歳	(N=97)	70.1	29.9	0.0
	60～64歳	(N=42)	78.6	19.0	2.4
	65～74歳	(N=163)	69.9	27.6	2.5
	75～84歳	(N=82)	74.4	23.2	2.4
	85歳以上	(N=10)	60.0	30.0	10.0
女性	全体	(N=815)	75.0	24.2	0.9
	20～29歳	(N=54)	64.8	35.2	0.0
	30～39歳	(N=135)	60.7	38.5	0.7
	40～49歳	(N=148)	71.6	27.7	0.7
	50～59歳	(N=112)	80.4	19.6	0.0
	60～64歳	(N=63)	85.7	14.3	0.0
	65～74歳	(N=150)	80.0	18.7	1.3
	75～84歳	(N=120)	85.0	13.3	1.7
	85歳以上	(N=33)	66.7	30.3	3.0

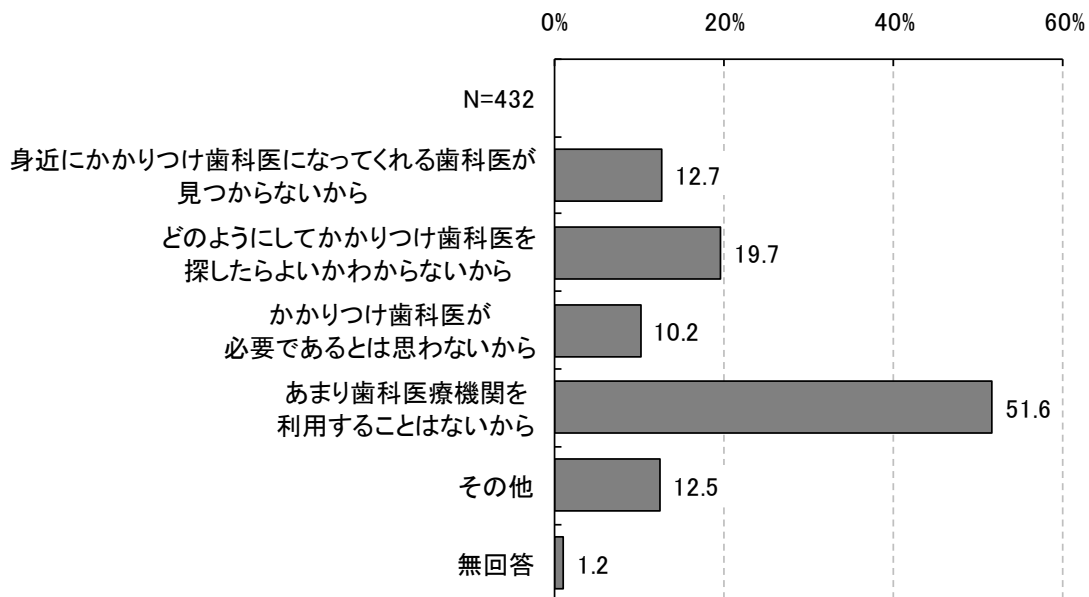
※性別・年齢の設定で無回答のものを除く

■：1位 ■：2位

○かかりつけ歯科医を持っていない理由

かかりつけ歯科医を持っていない理由については、「あまり歯科医療機関を利用することはないから」が 51.6%と最も多く、次いで「どのようにしてかかりつけ歯科医を探したらよいかわからないから」が 19.7%、「身近にかかりつけ歯科医になってくれる歯科医が見つからないから」が 12.7%であった。〈図表 1-7〉

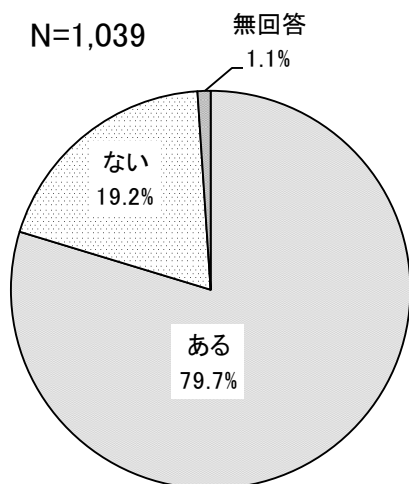
〈図表 1-7〉 【区民】：かかりつけ歯科医を持っていない理由【複数回答】



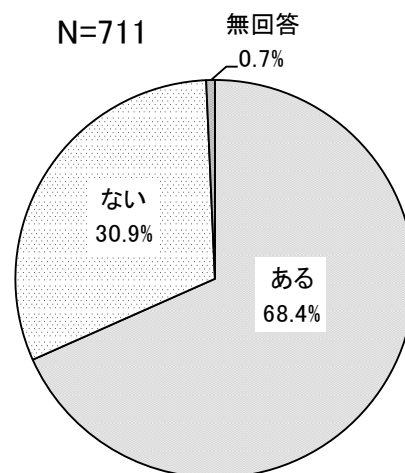
○小学生・中学生のかかりつけ歯科医を持っている割合

小学 4 年生でかかりつけ歯科医を持っている割合は、79.7%であった。〈図表 1-8〉
 中学 1 年生でかかりつけ歯科医を持っている割合は、68.4%であった。〈図表 1-9〉

〈図表 1-8〉
【小学生】：かかりつけ歯科医の有無



〈図表 1-9〉
【中学生】：かかりつけ歯科医の有無

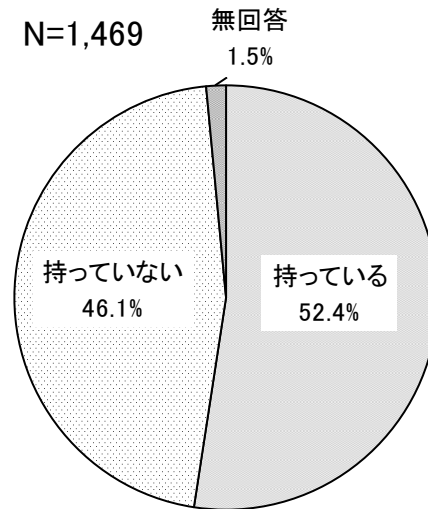


(3) かかりつけ薬剤師・薬局

○かかりつけ薬剤師・薬局を持っている割合

かかりつけ薬剤師・薬局を持っている割合は、52.4%であった。〈図表 1-10〉
性別・年代別でみると、男性の59歳以下、女性の49歳以下で「持っていない」が多
くなっている。〈図表 1-11〉

〈図表 1-10〉 【区民】：かかりつけ薬剤師・薬局の有無



〈図表 1-11〉 【区民】：かかりつけ薬剤師・薬局の有無（性別・年代別）

(%)

		合計	持っている	持っていない	無回答
男性	全体	(N=641)	47.3	50.9	1.9
	20～29歳	(N=47)	17.0	80.9	2.1
	30～39歳	(N=90)	18.9	78.9	2.2
	40～49歳	(N=110)	30.9	69.1	0.0
	50～59歳	(N=97)	49.5	50.5	0.0
	60～64歳	(N=42)	50.0	47.6	2.4
	65～74歳	(N=163)	65.6	31.3	3.1
	75～84歳	(N=82)	75.6	22.0	2.4
	85歳以上	(N=10)	60.0	30.0	10.0
女性	全体	(N=815)	56.3	42.7	1.0
	20～29歳	(N=54)	35.2	59.3	5.6
	30～39歳	(N=135)	36.3	63.7	0.0
	40～49歳	(N=148)	45.9	53.4	0.7
	50～59歳	(N=112)	50.9	49.1	0.0
	60～64歳	(N=63)	61.9	38.1	0.0
	65～74歳	(N=150)	66.7	33.3	0.0
	75～84歳	(N=120)	81.7	16.7	1.7
	85歳以上	(N=33)	87.9	6.1	6.1

※性別・年齢の設問で無回答のものを除く

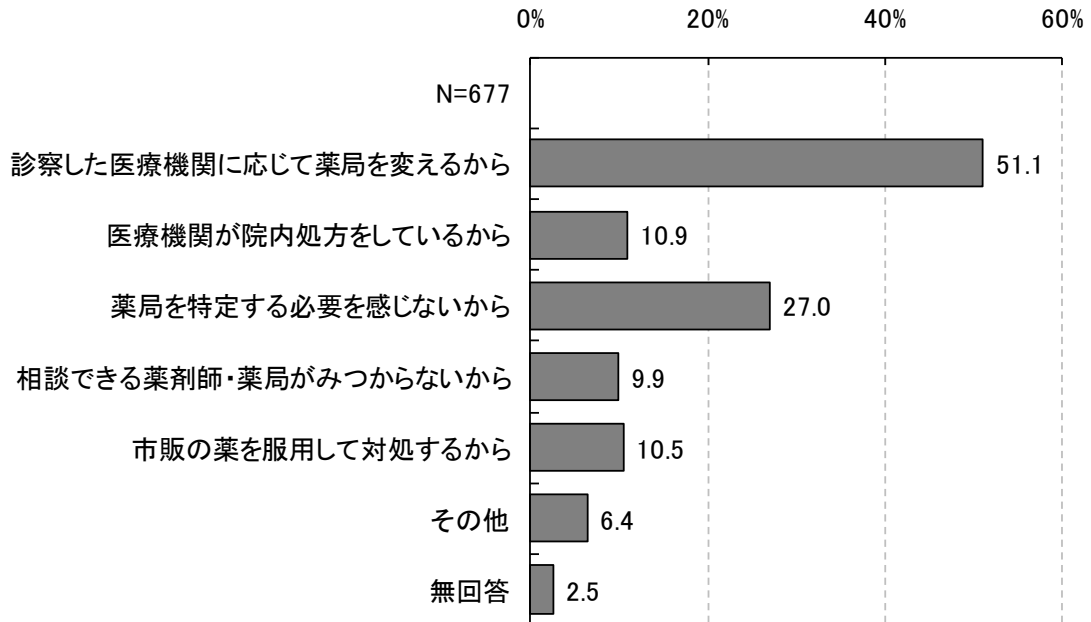
■：1位 ■：2位

○かかりつけ薬剤師・薬局を持っていない理由

かかりつけ薬剤師・薬局を持っていない理由については、「診察した医療機関に応じて薬局を変えるから」が51.1%と最も多く、次いで「薬局を特定する必要を感じないから」が27.0%、「医療機関が院内処方をしているから」が10.9%となっている。

<図表 1-12>

<図表 1-12> 【区民】：かかりつけ薬剤師・薬局を持っていない理由【複数回答】



2 在宅療養の現状

(1) 区民の在宅療養への意識

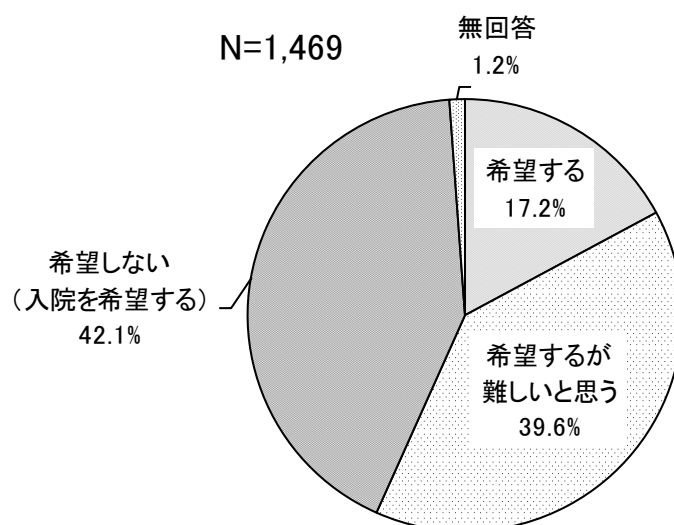
○在宅療養の希望

区民の在宅療養を希望する方の割合は、「希望する」が 17.2%、「希望するが難しいと思う」が 39.6%で、約 57%の方が可能であれば、在宅療養を希望すると答えていた。

<図表 2-1>

性別・年代別でみると、男性の 50～59 歳、女性の 60～64 歳、85 歳以上の世代では「希望しない（入院を希望する）」との回答が半数以上であった。<図表 2-2>

<図表 2-1> 【区民】：在宅療養の希望



<図表 2-2> 【区民】：在宅療養の希望（性別・年代別）

		合計	希望する	希望するが 難しいと思 う	希望しない (入院を希 望する)	無回答
男性	全体	(N=641)	18.1	38.2	42.3	1.4
	20～29歳	(N=47)	17.0	42.6	40.4	0.0
	30～39歳	(N=90)	12.2	52.2	33.3	2.2
	40～49歳	(N=110)	20.0	40.0	39.1	0.9
	50～59歳	(N=97)	17.5	29.9	52.6	0.0
	60～64歳	(N=42)	21.4	33.3	45.2	0.0
	65～74歳	(N=163)	17.8	35.0	46.0	1.2
	75～84歳	(N=82)	23.2	39.0	36.6	1.2
	85歳以上	(N=10)	10.0	20.0	40.0	30.0
(再掲)65歳以上	(N=255)	19.2	35.7	42.7	2.4	
女性	全体	(N=815)	16.4	40.2	42.5	0.9
	20～29歳	(N=54)	22.2	37.0	40.7	0.0
	30～39歳	(N=135)	23.7	43.7	32.6	0.0
	40～49歳	(N=148)	12.8	43.2	43.2	0.7
	50～59歳	(N=112)	6.3	49.1	44.6	0.0
	60～64歳	(N=63)	17.5	28.6	54.0	0.0
	65～74歳	(N=150)	18.0	38.7	42.7	0.7
	75～84歳	(N=120)	17.5	38.3	41.7	2.5
	85歳以上	(N=33)	15.2	24.2	54.5	6.1
(再掲)65歳以上	(N=303)	17.5	37.0	43.6	2.0	

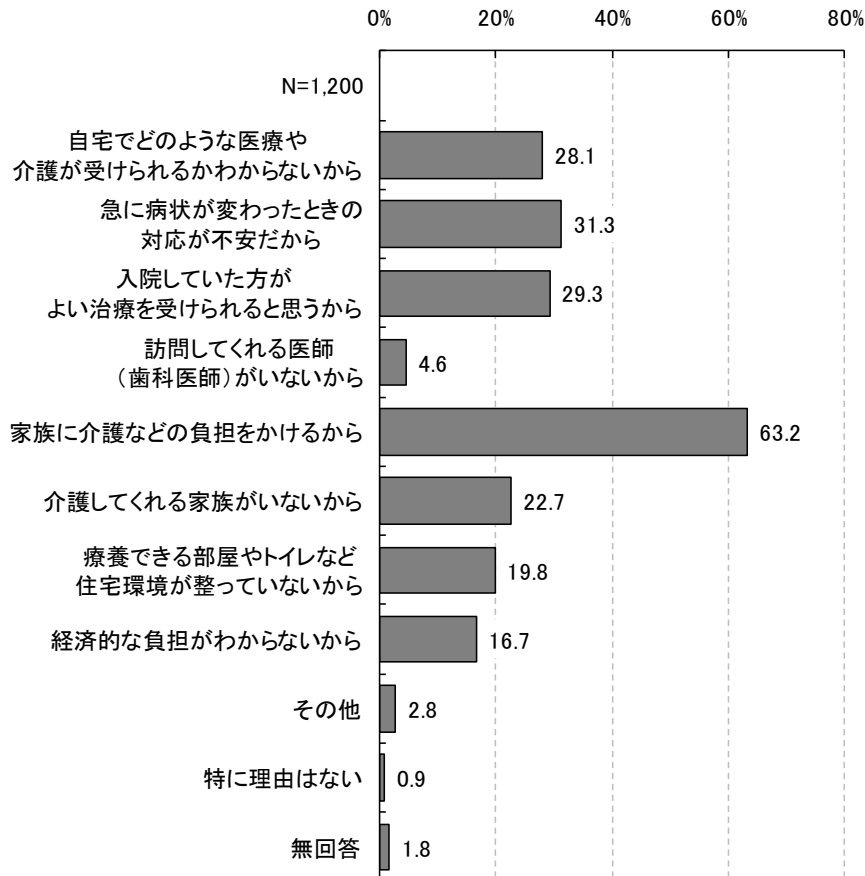
※性別・年齢の設問で無回答のものを除く

■:1位 ■:2位

○在宅療養を希望しない、難しいと思う理由

自宅での療養を「希望しない」、または「希望するが難しいと思う」理由については、「家族に介護などの負担をかけるから」が 63.2%と最も多く、次いで「急に病状が変わったときの対応が不安だから」が 31.3%、「入院していた方がよい治療を受けられると思うから」が 29.3%であった。〈図表 2-3〉

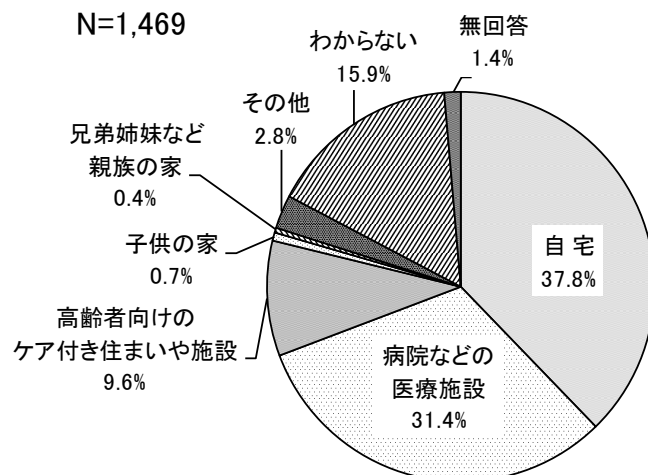
〈図表 2-3〉 【区民】：在宅療養を希望しない理由、難しいと思う理由【回答は3つまで】



○人生の最期を迎える時に過ごしたい場所

人生の最期を迎える時に過ごしたい場所については、「自宅」が 37.8%と最も多く、次いで「病院などの医療施設」が 31.4%、「高齢者向けのケア付き住まいや施設」が 9.6%であった。〈図表 2-4〉

〈図表 2-4〉 【区民】：人生の最期を迎える時に過ごしたい場所



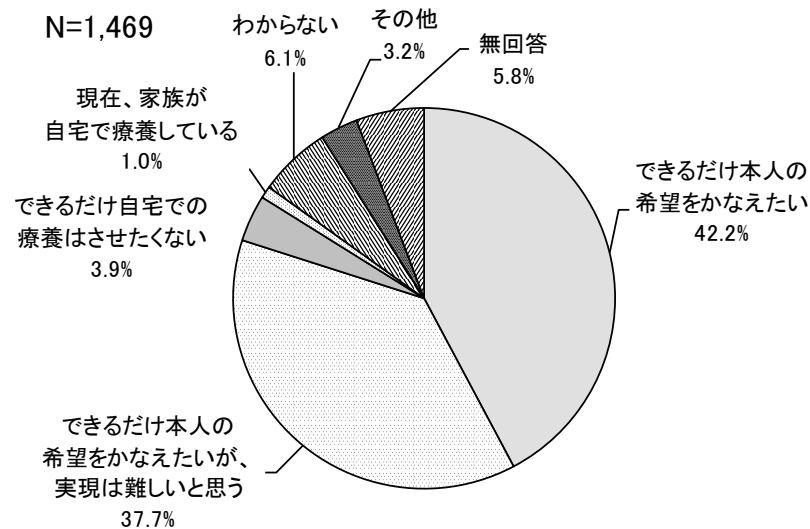
○家族の在宅療養の希望への対応

家族が自宅での長期療養を希望した場合については、「できるだけ本人の希望をかなえたい」が42.2%と最も多く、次いで「できるだけ本人の希望をかなえたいが、実現は難しいと思う」が37.7%、「わからない」が6.1%であった。〈図表 2-5〉

性別でみると、男性では、「できるだけ本人の希望をかなえたい」、女性では、「できるだけ本人の希望をかなえたいが、実現は難しいと思う」が多くなっている。

〈図表 2-6〉

〈図表 2-5〉 【区民】：家族の在宅療養の希望への対応



〈図表 2-6〉 【区民】：家族の在宅療養への希望の対応（性別・年代別）

(%)

	合計	できるだけ本人の希望をかなえたい	できるだけ本人の希望をかなえたいが、実現は難しいと思う	できるだけ自宅での療養はさせたくない	現在、家族が自宅で療養している	わからない	その他	無回答
男性	全体 (N=641)	44.1	33.1	3.6	0.5	7.6	3.9	7.2
	20～29歳 (N=47)	61.7	25.5	0.0	0.0	8.5	0.0	4.3
	30～39歳 (N=90)	54.4	27.8	4.4	1.1	5.6	0.0	6.7
	40～49歳 (N=110)	53.6	34.5	2.7	0.0	6.4	1.8	0.9
	50～59歳 (N=97)	47.4	32.0	3.1	1.0	9.3	4.1	3.1
	60～64歳 (N=42)	38.1	33.3	2.4	0.0	9.5	4.8	11.9
	65～74歳 (N=163)	36.2	31.9	3.1	0.6	9.8	6.7	11.7
	75～84歳 (N=82)	25.6	43.9	8.5	0.0	3.7	6.1	12.2
85歳以上 (N=10)	40.0	40.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0	
女性	全体 (N=815)	40.4	41.6	4.3	1.5	5.0	2.7	4.5
	20～29歳 (N=54)	42.6	50.0	3.7	1.9	1.9	0.0	0.0
	30～39歳 (N=135)	57.8	34.8	6.7	0.0	0.0	0.0	0.7
	40～49歳 (N=148)	44.6	43.2	2.7	2.0	4.1	1.4	2.0
	50～59歳 (N=112)	31.3	52.7	5.4	0.9	6.3	1.8	1.8
	60～64歳 (N=63)	34.9	47.6	6.3	0.0	6.3	0.0	4.8
	65～74歳 (N=150)	40.7	42.0	2.0	3.3	5.3	2.7	4.0
	75～84歳 (N=120)	27.5	37.5	3.3	1.7	8.3	10.0	11.7
85歳以上 (N=33)	33.3	12.1	9.1	0.0	15.2	6.1	24.2	

※性別・年齢の設問で無回答のものを除く

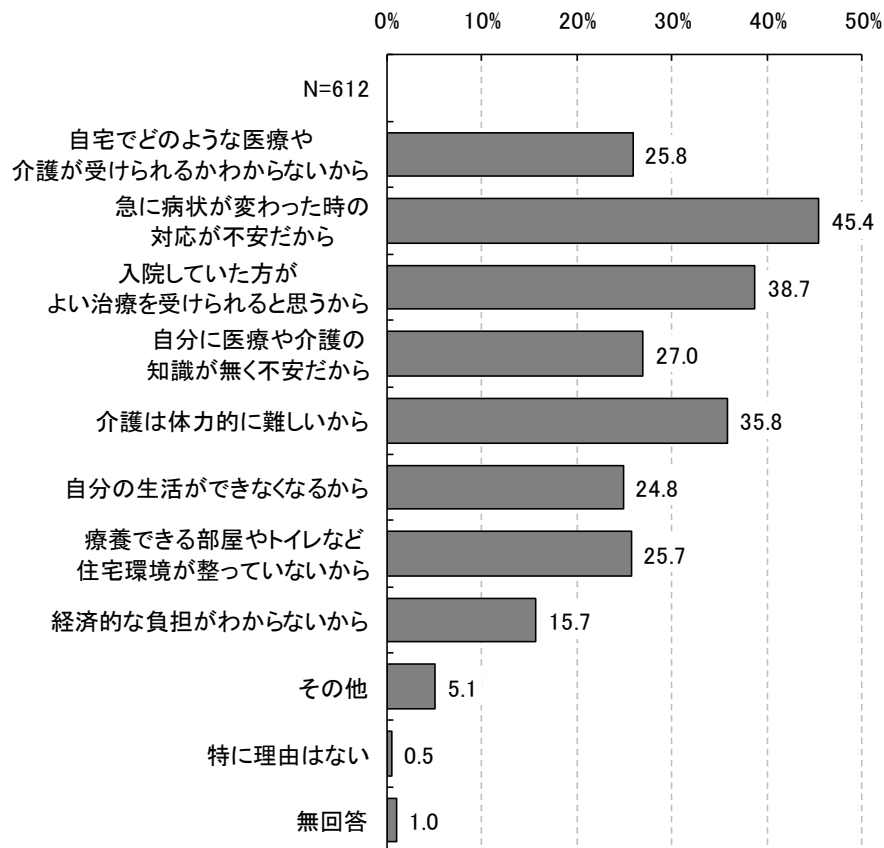
■: 1位 ■: 2位

○家族の在宅療養を難しい、させたくないと思う理由

家族が自宅での長期療養を希望した場合に「実現は難しい」、「自宅での療養はさせたくない」と思う理由については、「急に病状が変わった時の対応が不安だから」が45.4%と最も多く、次いで「入院していた方がよい治療を受けられると思うから」が38.7%、「介護は体力的に難しいから」が35.8%であった。〈図表 2-7〉

性別・年代別でみると、男女ともに49歳以下では「急に病状が変わった時の対応が不安だから」が多い傾向がみられた。〈図表 2-8〉

〈図表 2-7〉【区民】：家族の在宅療養を難しい、させたくないと思う理由【回答は3つまで】



〈図表 2-8〉【区民】：家族の在宅療養を難しい、させたくないと思う理由（性別・年代別） (%)

		合計	自宅での	急に病状	入院してい	自分に医	介護は体	自分の生	療養できる	経済的な	その他	特に理由	無回答
			ような医療	が変わった	た方がよい	療や介護	力的に難し	活ができな	部屋やトイレ	負担がわ			
			や介護が	が不安だ	治療を受	が無く不安	いから	くなるから	など住宅	からないから			
			受けられる	から	けられると	だから			環境が				
			かわらない		思うから				整っていな				
			いから						いから				
男性	全体	(N=235)	28.5	43.4	47.7	26.0	23.4	25.5	25.1	13.6	3.0	1.3	0.9
	20～29歳	(N=12)	41.7	58.3	41.7	41.7	0.0	41.7	16.7	25.0	0.0	0.0	0.0
	30～39歳	(N=29)	41.4	51.7	37.9	31.0	24.1	41.4	17.2	13.8	3.4	0.0	0.0
	40～49歳	(N=41)	19.5	43.9	41.5	31.7	19.5	46.3	19.5	24.4	2.4	0.0	0.0
	50～59歳	(N=34)	32.4	55.9	50.0	20.6	11.8	17.6	35.3	11.8	11.8	0.0	0.0
	60～64歳	(N=15)	46.7	26.7	33.3	13.3	20.0	13.3	20.0	13.3	6.7	6.7	0.0
	65～74歳	(N=57)	21.1	42.1	49.1	22.8	29.8	14.0	35.1	10.5	0.0	3.5	0.0
	75～84歳	(N=43)	25.6	34.9	58.1	27.9	34.9	18.6	18.6	7.0	0.0	0.0	4.7
	85歳以上	(N=4)	25.0	0.0	100.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
女性	全体	(N=374)	23.8	47.1	33.2	27.5	43.9	24.1	26.2	17.1	6.4	0.0	1.1
	20～29歳	(N=29)	20.7	62.1	24.1	48.3	34.5	44.8	24.1	17.2	3.4	0.0	0.0
	30～39歳	(N=56)	16.1	46.4	35.7	32.1	30.4	42.9	21.4	23.2	12.5	0.0	0.0
	40～49歳	(N=68)	23.5	54.4	26.5	20.6	27.9	30.9	25.0	20.6	7.4	0.0	0.0
	50～59歳	(N=65)	33.8	33.8	33.8	20.0	41.5	23.1	35.4	15.4	10.8	0.0	1.5
	60～64歳	(N=34)	23.5	52.9	50.0	14.7	50.0	20.6	29.4	8.8	0.0	0.0	2.9
	65～74歳	(N=66)	24.2	43.9	33.3	33.3	57.6	10.6	30.3	15.2	3.0	0.0	3.0
	75～84歳	(N=49)	20.4	46.9	32.7	32.7	63.3	4.1	16.3	18.4	4.1	0.0	0.0
	85歳以上	(N=7)	28.6	42.9	28.6	14.3	71.4	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0

※性別・年齢の設定で無回答のものを除く

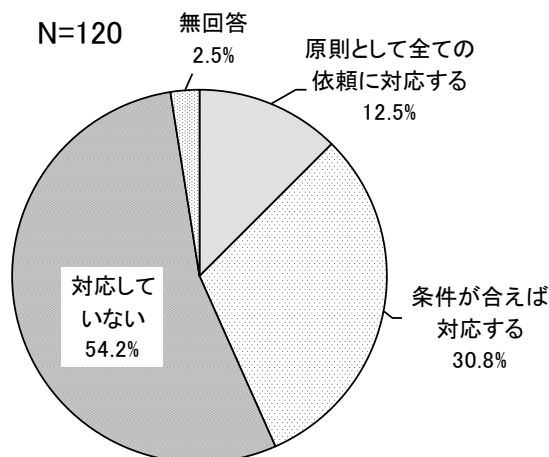
■:1位 ■:2位

(2) 診療所・病院における在宅医療

○在宅医療への対応

診療所での在宅医療（訪問診療あるいは往診）への対応については、「対応していない」が 54.2%と最も多く、次いで「条件が合えば対応する」が 30.8%、「原則として全ての依頼に対応する」が 12.5%であった。〈図表 2-9〉

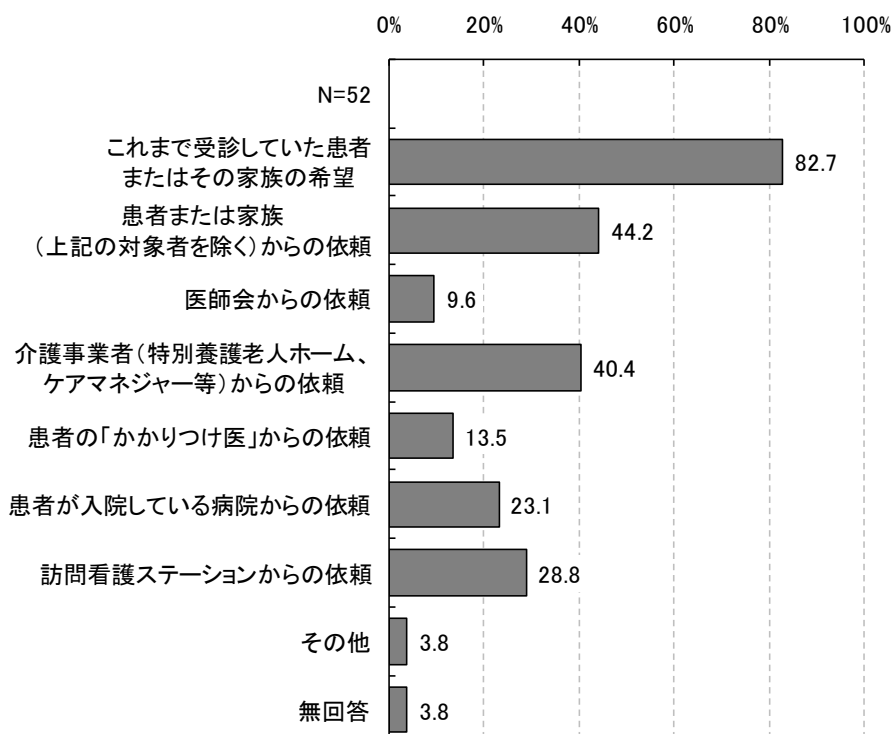
〈図表 2-9〉 【診療所・病院】：在宅医療への対応



○在宅医療の依頼元

診療所における在宅医療の依頼元については、「これまで受診していた患者またはその家族の希望」が 82.7%と最も多く、次いで「患者または家族からの依頼（前記の対象者を除く）」が 44.2%、「介護事業者（特別養護老人ホーム、ケアマネジャー等）からの依頼」が 40.4%であった。〈図表 2-10〉

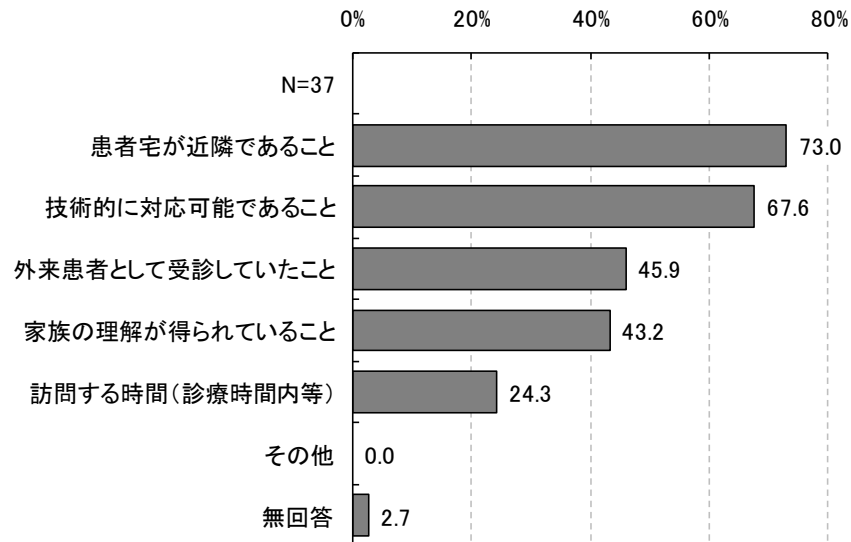
〈図表 2-10〉 【診療所・病院】：在宅医療の依頼元【複数回答】



○在宅医療に対応する条件

診療所で、在宅医療に「条件が合えば対応する」場合の条件については、「患者宅が近隣であること」が73.0%と最も多く、次いで「技術的に対応可能であること」が67.6%、「外来患者として受診していたこと」が45.9%であった。〈図表 2-11〉

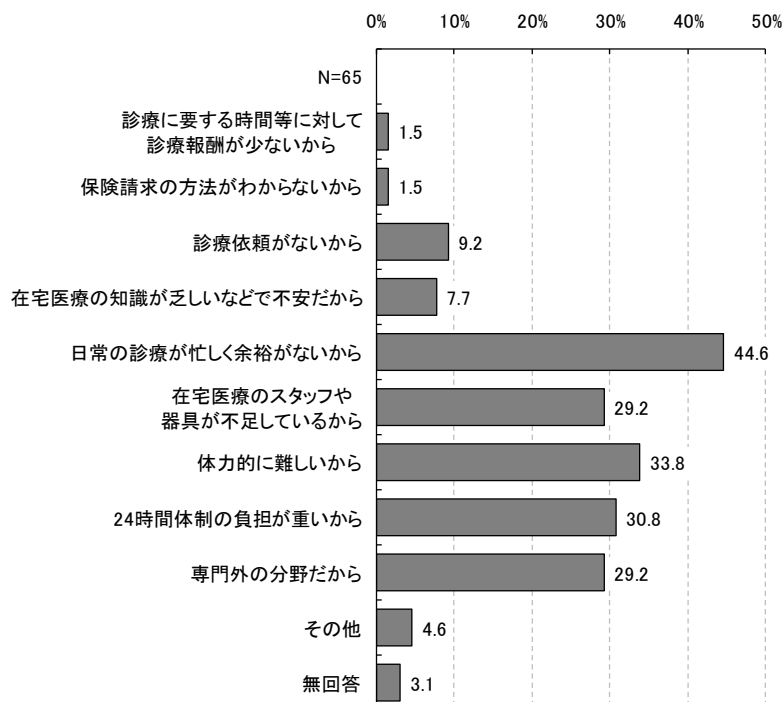
〈図表 2-11〉 【診療所・病院】：在宅医療に対応する条件【回答は3つまで】



○在宅医療に対応していない理由

診療所で在宅医療に「対応していない」理由については、「日常の診療が忙しく余裕がないから」が44.6%と最も多く、次いで「体力的に難しいから」が33.8%、「24時間体制の負担が重いから」が30.8%であった。〈図表 2-12〉

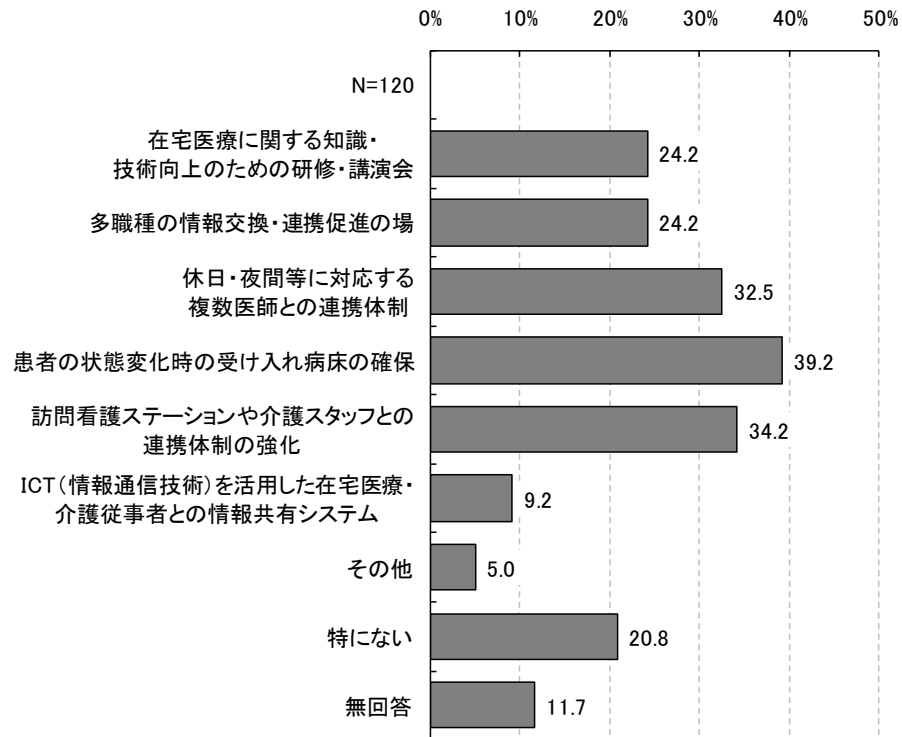
〈図表 2-12〉 【診療所・病院】：在宅医療に対応していない理由【回答は3つまで】



○在宅医療を実施する際に必要なこと

診療所で在宅医療を実施する際に必要なことについては、「患者の状態変化時の受け入れ病床の確保」が 39.2%と最も多く、次いで「訪問看護ステーションや介護スタッフとの連携体制の強化」が 34.2%、「休日・夜間等に対応する複数医師との連携体制」が 32.5%であった。〈図表 2-13〉

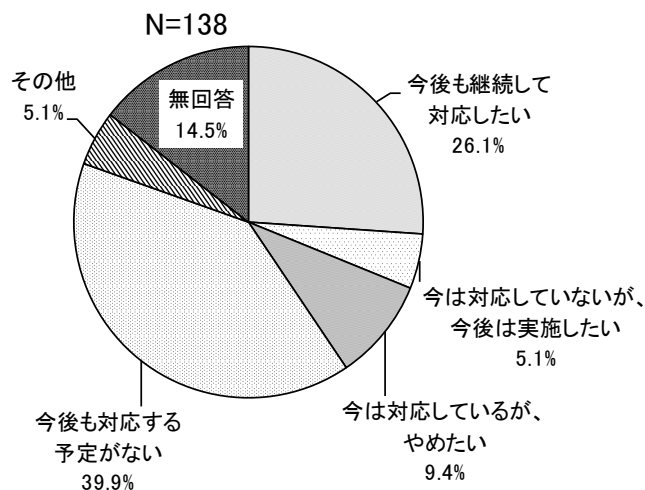
〈図表 2-13〉 【診療所・病院】：在宅医療を実施する際に必要なこと【複数回答】



○在宅医療の今後に対する考え

在宅医療の今後に対する考えについては、「今後も対応する予定がない」が 39.9%と最も多く、次いで「今後も継続して対応したい」が 26.1%、「今は対応しているが、やめたい」が 9.4%であった。〈図表 2-14〉

〈図表 2-14〉 【診療所・病院】：在宅医療の今後に対する考え

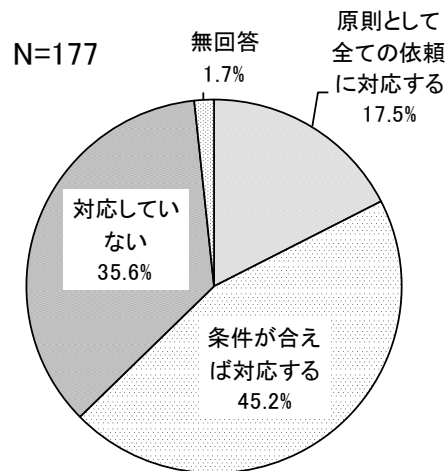


(3) 在宅歯科医療

○在宅歯科診療への対応

在宅歯科診療への対応については、「条件が合えば対応する」が 45.2%と最も多く、次いで「対応していない」が 35.6%、「原則として全ての依頼に対応する」が 17.5%であった。〈図表 2-15〉

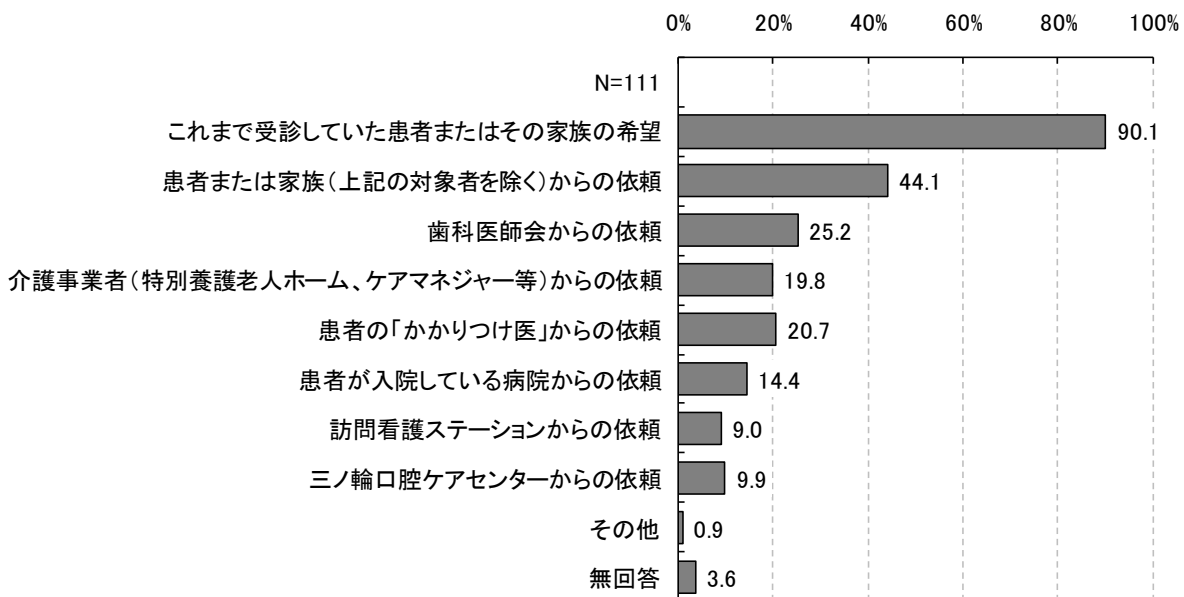
〈図表 2-15〉 【歯科診療所】：在宅歯科診療への対応



○在宅歯科診療の依頼元

在宅歯科診療の依頼元については、「これまで受診していた患者またはその家族の希望」が 90.1%と最も多く、次いで「患者または家族からの依頼（前記の対象者を除く）」が 44.1%、「歯科医師会からの依頼」が 25.2%であった。〈図表 2-16〉

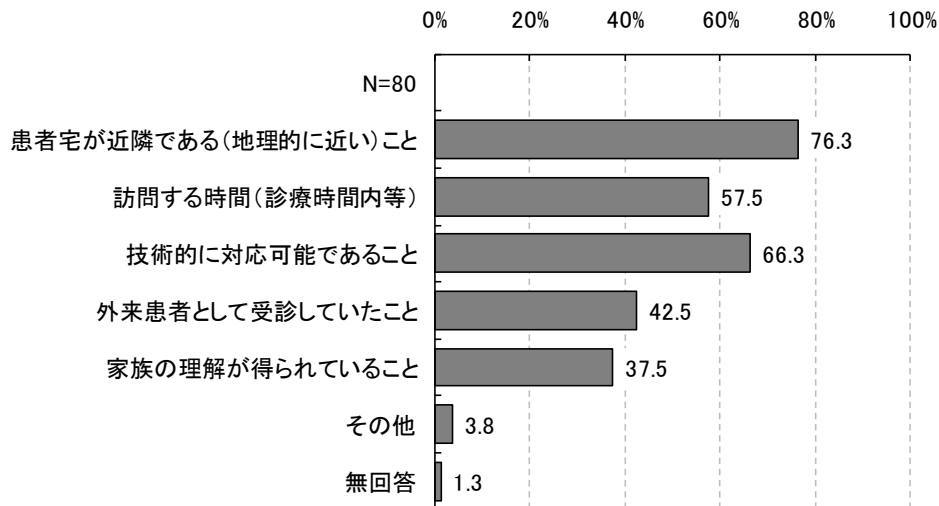
〈図表 2-16〉 【歯科診療所】：在宅歯科診療の依頼元【複数回答】



○在宅歯科診療に対応する条件

在宅歯科診療に「条件が合えば対応する」場合の条件については、「患者宅が近隣である（地理的に近い）こと」が76.3%と最も多く、次いで「技術的に対応可能であること」が66.3%、「訪問する時間（診療時間内等）」が57.5%であった。〈図表 2-17〉

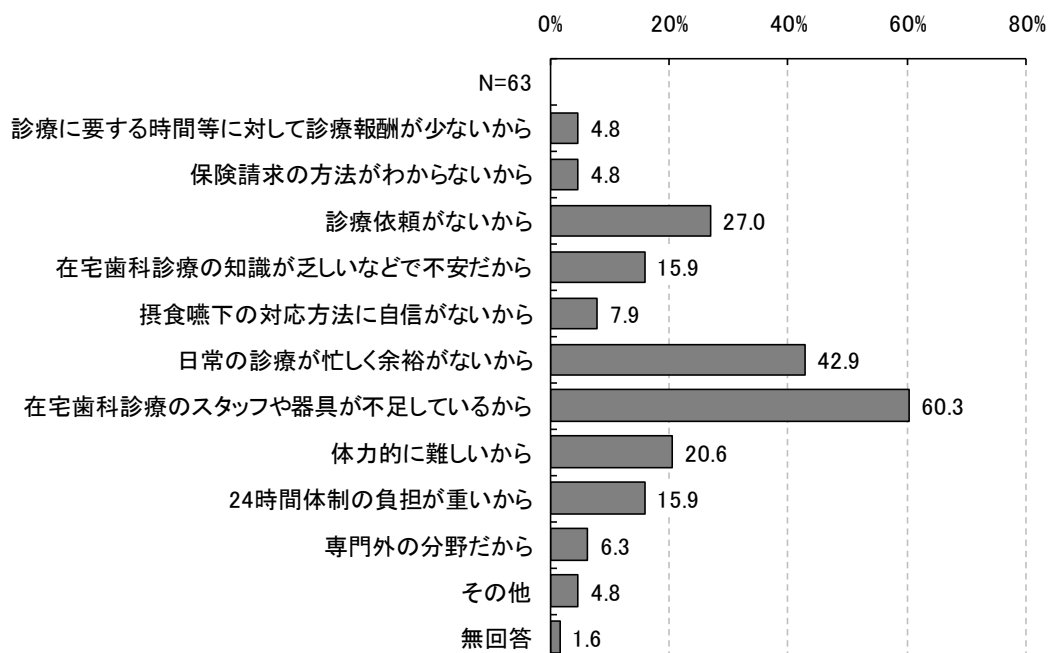
〈図表 2-17〉 【歯科診療所】：在宅歯科診療に対応する条件【回答は3つまで】



○在宅歯科診療に対応していない理由

在宅歯科診療に「対応していない」理由については、「在宅歯科診療のスタッフや器具が不足しているから」が60.3%と最も多く、次いで「日常の診療が忙しく余裕がないから」が42.9%、「診療依頼がないから」が27.0%であった。〈図表 2-18〉

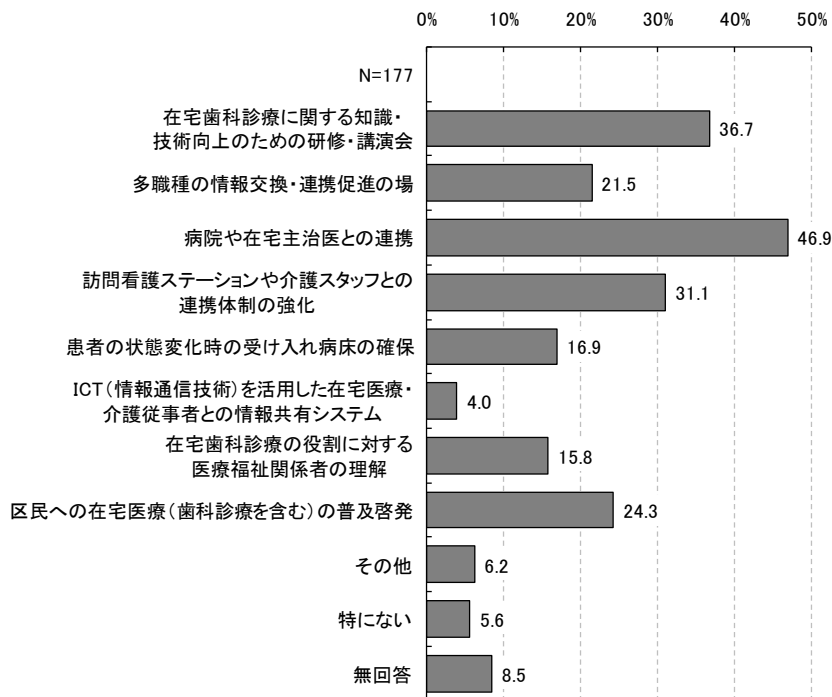
〈図表 2-18〉 【歯科診療所】：在宅歯科診療に対応していない理由【回答は3つまで】



○在宅歯科診療を実施する際に必要なこと

在宅歯科診療を実施する際に必要なことについては、「病院や在宅主治医との連携」が46.9%と最も多く、次いで「在宅歯科診療に関する知識・技術向上のための研修・講演会」が36.7%、「訪問看護ステーションや介護スタッフとの連携体制の強化」が31.1%であった。〈図表 2-19〉

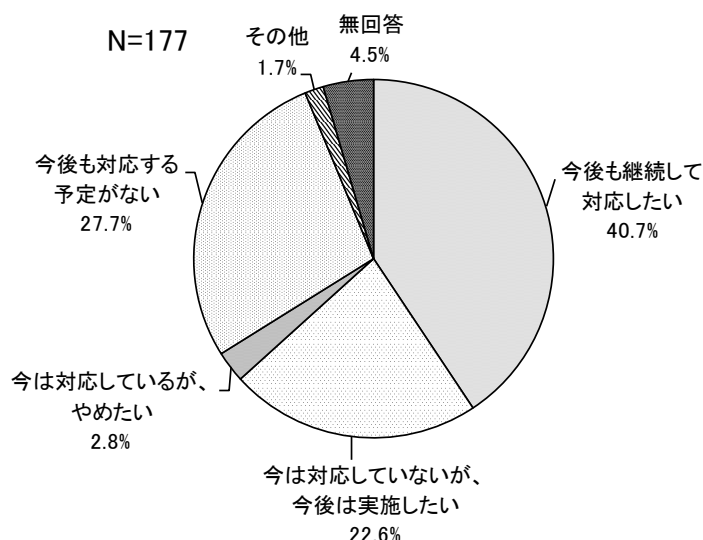
〈図表 2-19〉 【歯科診療所】：在宅歯科診療を実施する際に必要なこと【回答は3つまで】



○在宅歯科診療の今後に対する考え

在宅歯科診療の今後に対する考えについては、「今後も継続して対応したい」が40.7%と最も多く、次いで「今後も対応する予定がない」が27.7%、「今は対応していないが、今後は実施したい」が22.6%であった。〈図表 2-20〉

〈図表 2-20〉 【歯科診療所】：在宅歯科診療の今後に対する考え

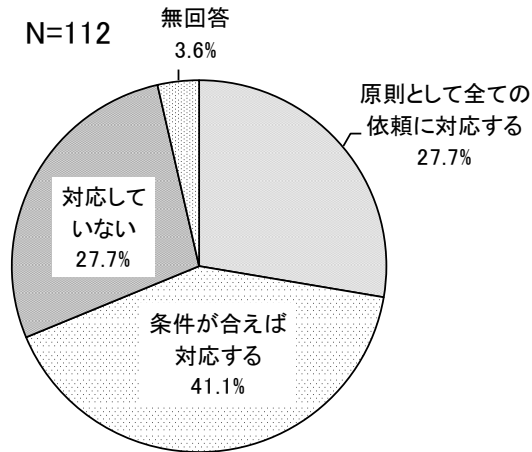


(4) 在宅患者訪問薬剤管理指導及び居宅療養管理指導

○在宅患者訪問薬剤管理指導及び居宅療養管理指導への対応

在宅患者訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導の依頼への対応については、「条件が合えば対応する」が41.1%と最も多く、次いで「原則として全ての依頼に対応する」と「対応していない」が27.7%であった。〈図表 2-21〉

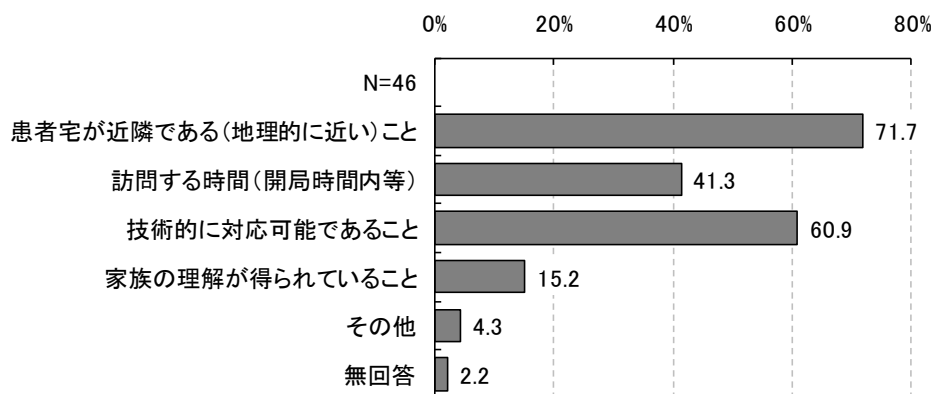
〈図表 2-21〉 【薬局】：在宅患者訪問薬剤管理指導及び居宅療養管理指導への対応



○在宅患者訪問薬剤管理指導及び居宅療養管理指導に対応する条件

在宅患者訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導の依頼に「条件が合えば対応する」場合の条件については、「患者宅が近隣である（地理的に近い）こと」が71.7%と最も多く、次いで「技術的に対応可能であること」が60.9%、「訪問する時間（開局時間内等）」が41.3%であった。〈図表 2-22〉

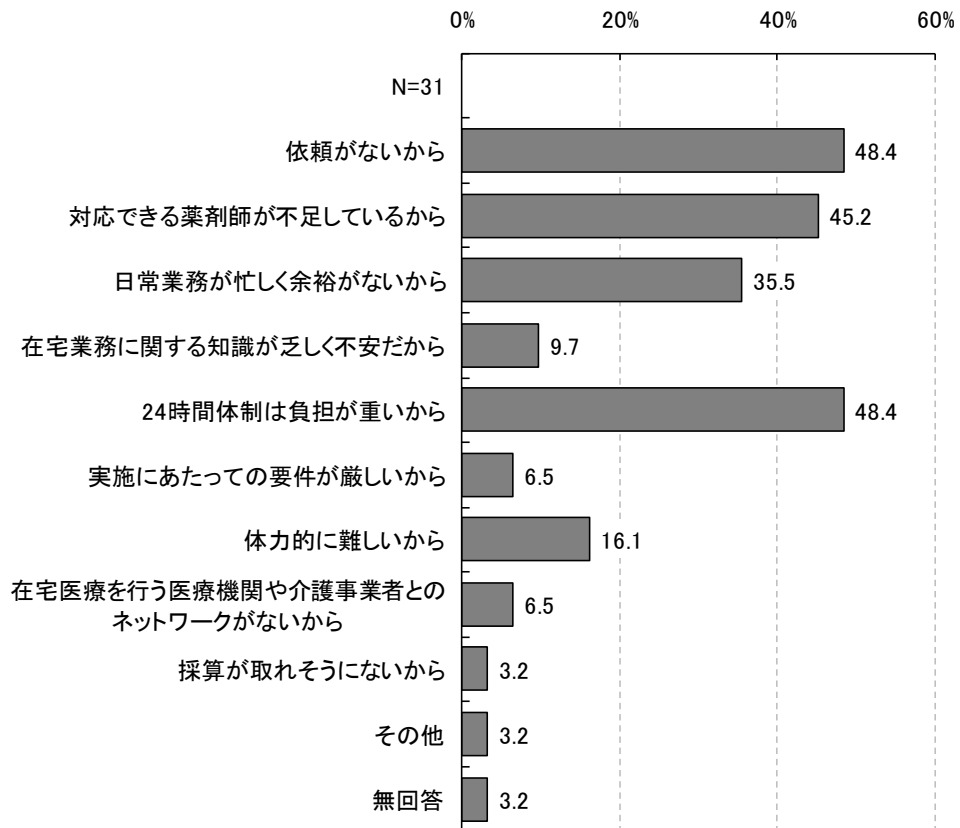
〈図表 2-22〉 【薬局】：在宅患者訪問薬剤管理指導及び居宅療養管理指導に対応する条件
【回答は2つまで】



○在宅患者訪問薬剤管理指導及び居宅療養管理指導に対応していない理由

在宅患者訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導の依頼に「対応していない」理由については、「依頼がないから」と「24 時間体制は負担が重いから」が 48.4%と最も多く、次いで「対応できる薬剤師が不足しているから」が 45.2%であった。〈図表 2-23〉

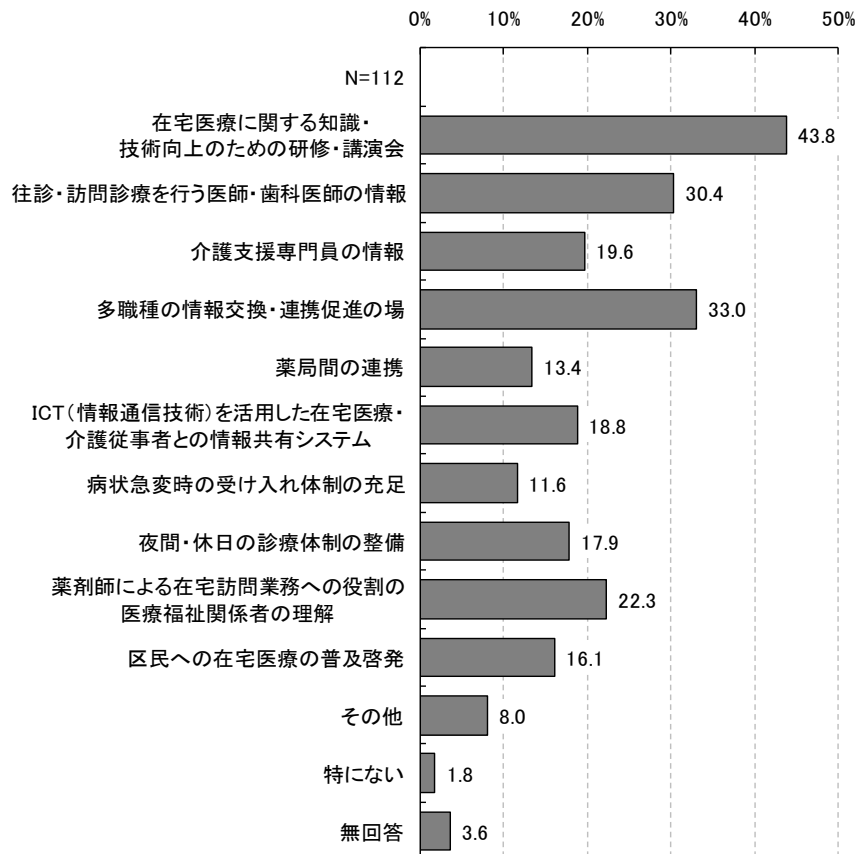
〈図表 2-23〉 【薬局】：在宅患者訪問薬剤管理指導及び居宅療養管理指導に対応していない理由
【回答は3つまで】



○在宅患者訪問薬剤管理指導及び居宅療養管理指導を実施する際に必要なこと

在宅患者訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導を実施する際に必要なことについては、「在宅医療に関する知識・技術向上のための研修・講演会」が43.8%と最も多く、次いで「多職種の情報交換・連携促進の場」が33.0%、「往診・訪問診療を行う医師・歯科医師の情報」が30.4%であった。〈図表 2-24〉

〈図表 2-24〉【薬局】：在宅患者訪問薬剤管理指導及び居宅療養管理指導を実施する際に必要なこと【回答は3つまで】

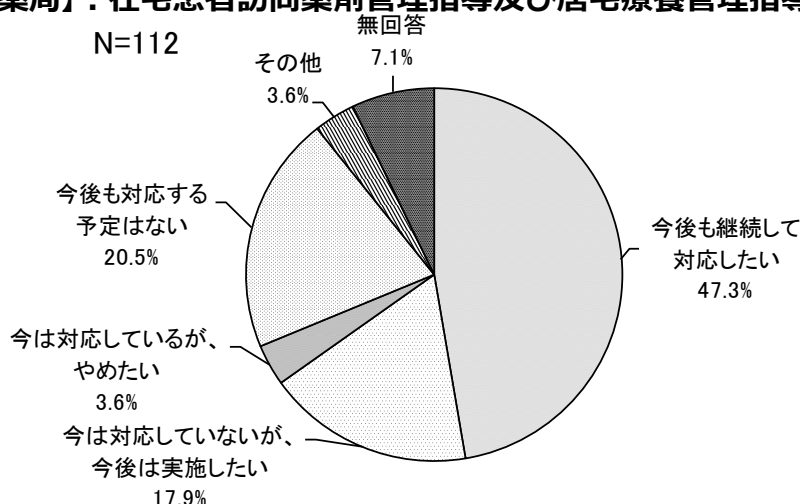


○在宅患者訪問薬剤管理指導及び居宅療養管理指導の今後に対する考え

在宅患者訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導の依頼への今後の対応については、「今後も継続して対応したい」が47.3%と最も多く、次いで「今後も対応する予定はない」が20.5%、「今は対応していないが、今後は実施したい」が17.9%であった。

〈図表 2-25〉

〈図表 2-25〉【薬局】：在宅患者訪問薬剤管理指導及び居宅療養管理指導の今後に対する考え



3 医療連携等に関する現状と課題

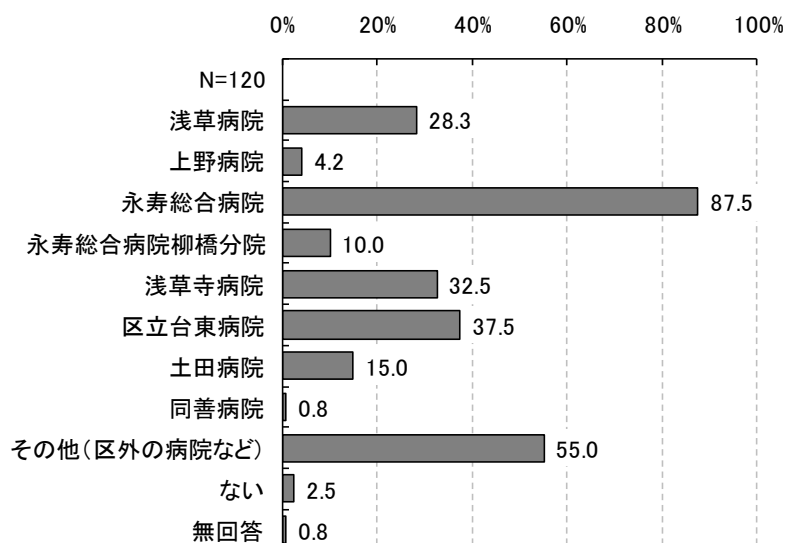
(1) 医療連携の現状

(ア) 病診連携について

○診療所における病診連携の利用状況

診療所が医療連携（病診連携）で利用する病院については、「永寿総合病院」が87.5%と最も多く、次いで「その他（区外の病院など）」が55.0%、「区立台東病院」が37.5%であった。〈図表 3-1〉

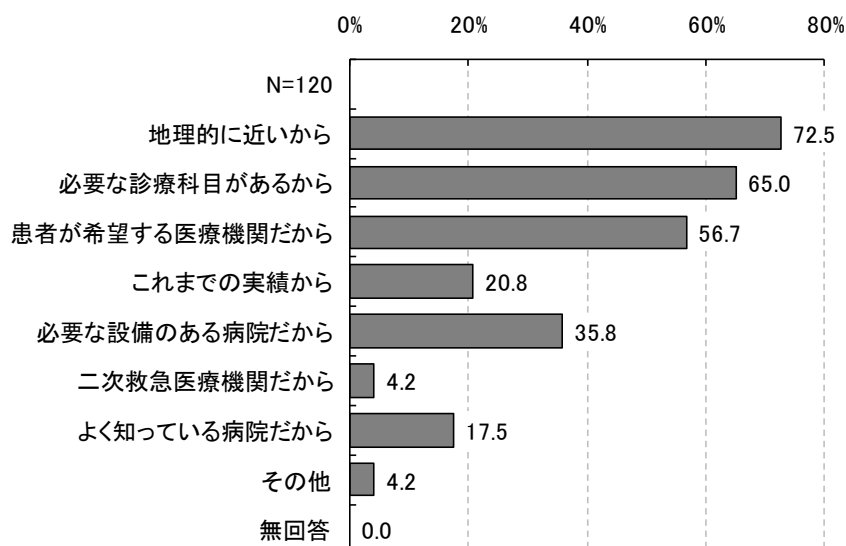
〈図表 3-1〉 【診療所】：病診連携の利用状況【複数回答】



○診療所が病診連携で病院を選択する際の理由

診療所が医療連携で病院を選択する際の理由については、「地理的に近いから」が72.5%と最も多く、次いで「必要な診療科目があるから」が65.0%、「患者が希望する医療機関だから」が56.7%であった。〈図表 3-2〉

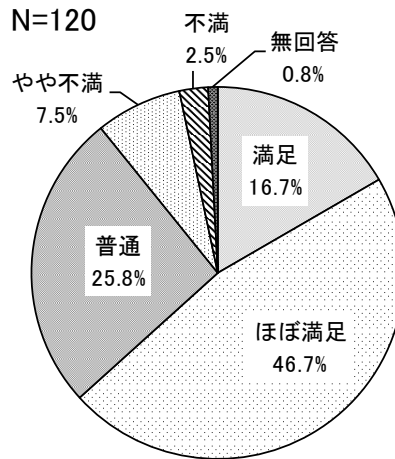
〈図表 3-2〉 【診療所】：病診連携で病院を選択する際の理由【回答は3つまで】



○診療所における病診連携に対する満足度

診療所の区内の病院との医療連携に対する満足度については、「ほぼ満足」が46.7%と最も多く、次いで「普通」が25.8%、「満足」が16.7%であった。〈図表3-3〉

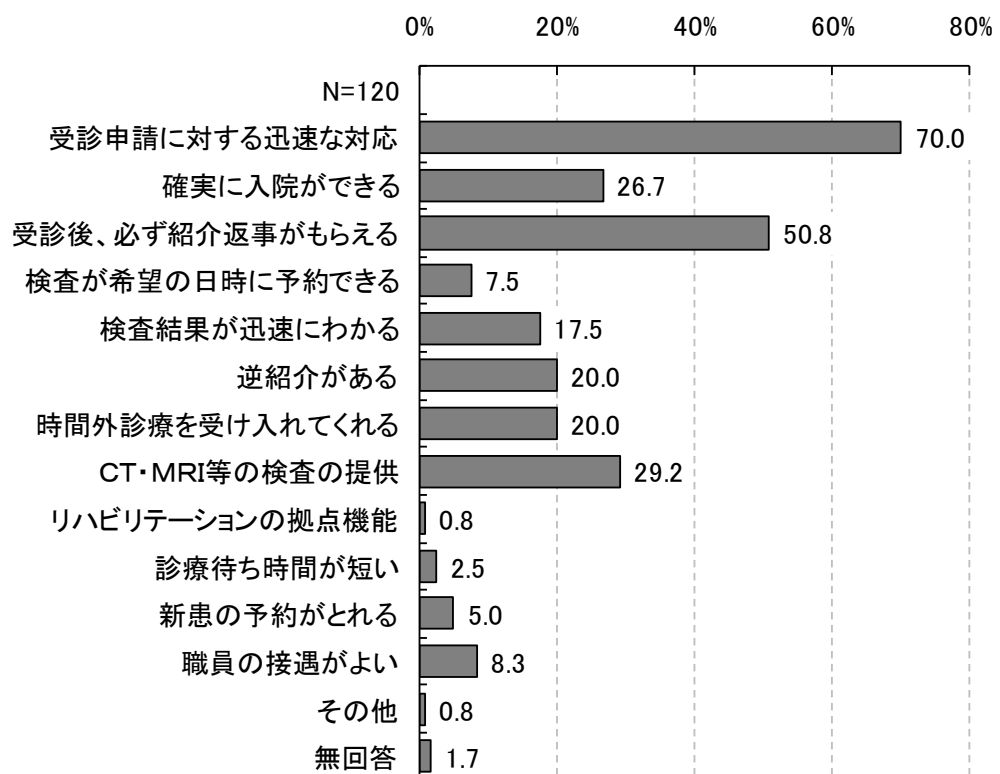
〈図表3-3〉【診療所】：病診連携に対する満足度



○診療所が区内の病院との医療連携に期待すること

診療所が区内の病院と医療連携する上で期待することについては、「受診申請に対する迅速な対応」が70.0%と最も多く、次いで「受診後、必ず紹介返事がもらえる」が50.8%、「CT・MRI等の検査の提供」が29.2%であった。〈図表3-4〉

〈図表3-4〉【診療所】：区内の病院との医療連携に期待すること【回答は3つまで】

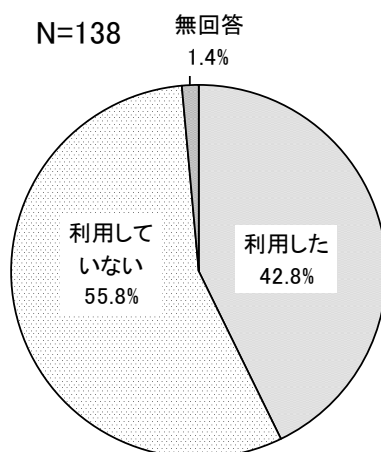


(イ) 区立台東病院について

○診療所・病院における医療連携での区立台東病院の利用状況

医療連携での区立台東病院の利用については、「利用した」が 42.8%、「利用していない」が 55.8%であった。〈図表 3-5〉

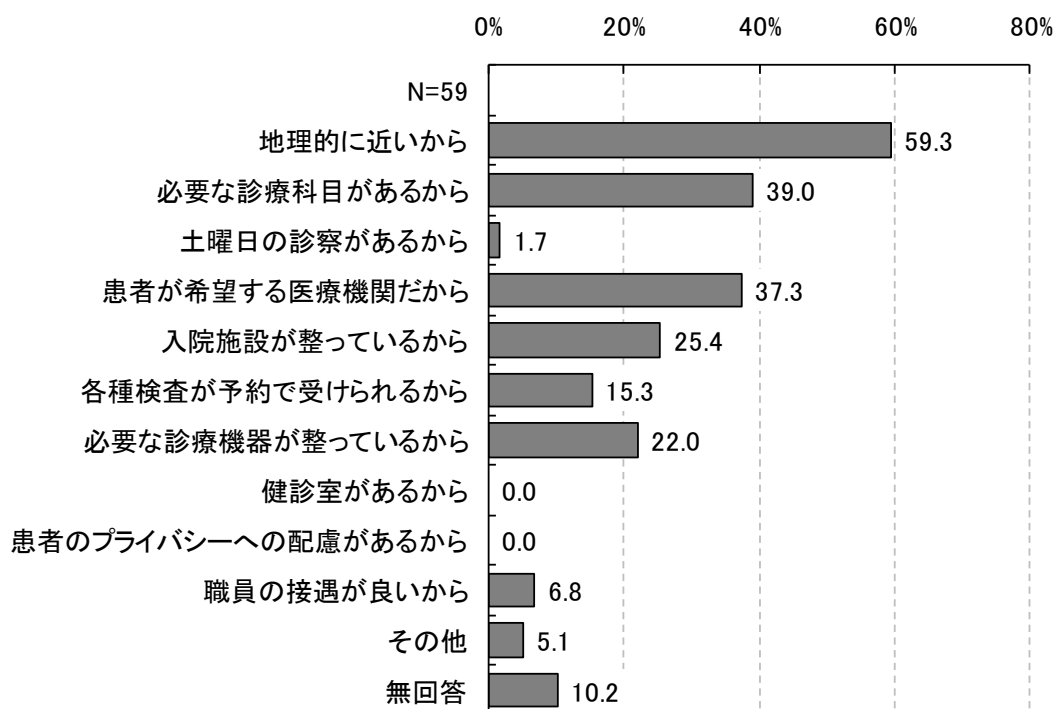
〈図表 3-5〉 【診療所・病院】：医療連携での区立台東病院の利用状況



○診療所・病院が医療連携で区立台東病院を利用した理由

診療所・病院が区立台東病院を医療連携で利用した理由については、「地理的に近いから」が 59.3%と最も多く、次いで「必要な診療科目があるから」が 39.0%、「患者が希望する医療機関だから」が 37.3%であった。〈図表 3-6〉

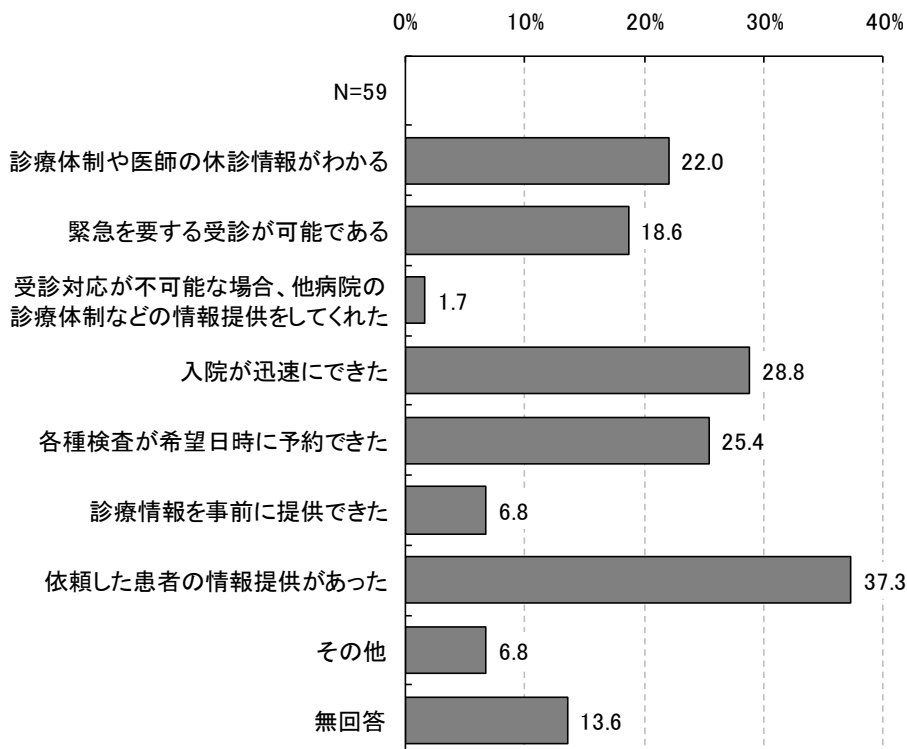
〈図表 3-6〉 【診療所・病院】：医療連携で区立台東病院を利用した理由【複数回答】



○診療所・病院が医療連携で区立台東病院を利用して良かったこと

診療所・病院が区立台東病院を医療連携で利用して良かったことについては、「依頼した患者の情報提供があった」が 37.3%と最も多く、次いで「入院が迅速にできた」が 28.8%、「各種検査が希望日時に予約できた」が 25.4%であった。〈図表 3-7〉

〈図表 3-7〉【診療所・病院】：医療連携で区立台東病院を利用して良かったこと【複数回答】

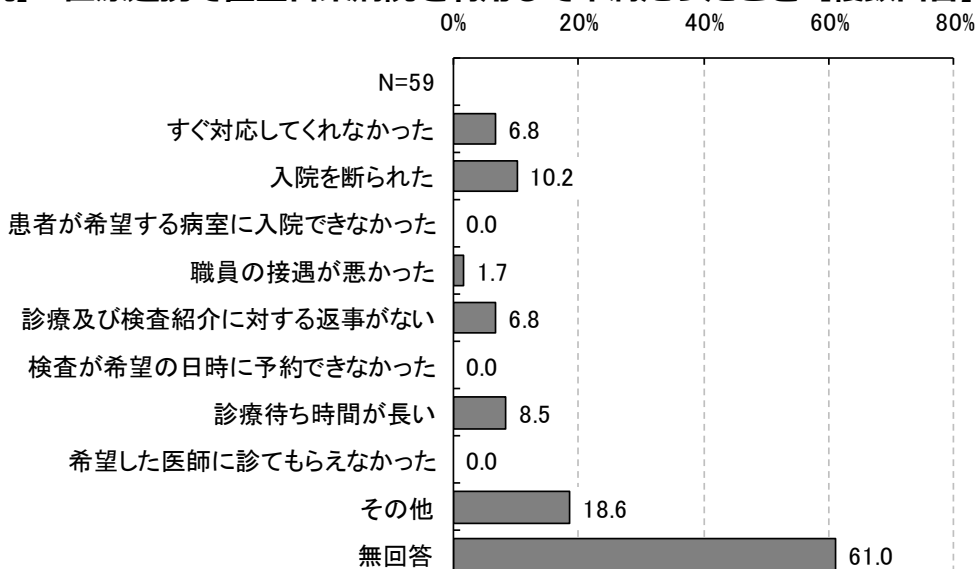


○診療所・病院が医療連携で区立台東病院を利用して不満だったこと

診療所・病院が区立台東病院を医療連携で利用して不満だったことについては、「入院を断られた」が 10.2%と最も多く、次いで「診療待ち時間が長い」が 8.5%、「すぐ対応してくれなかった」と「診療及び検査紹介に対する返事がない」が 6.8%であった。〈図表 3-8〉

〈図表 3-8〉

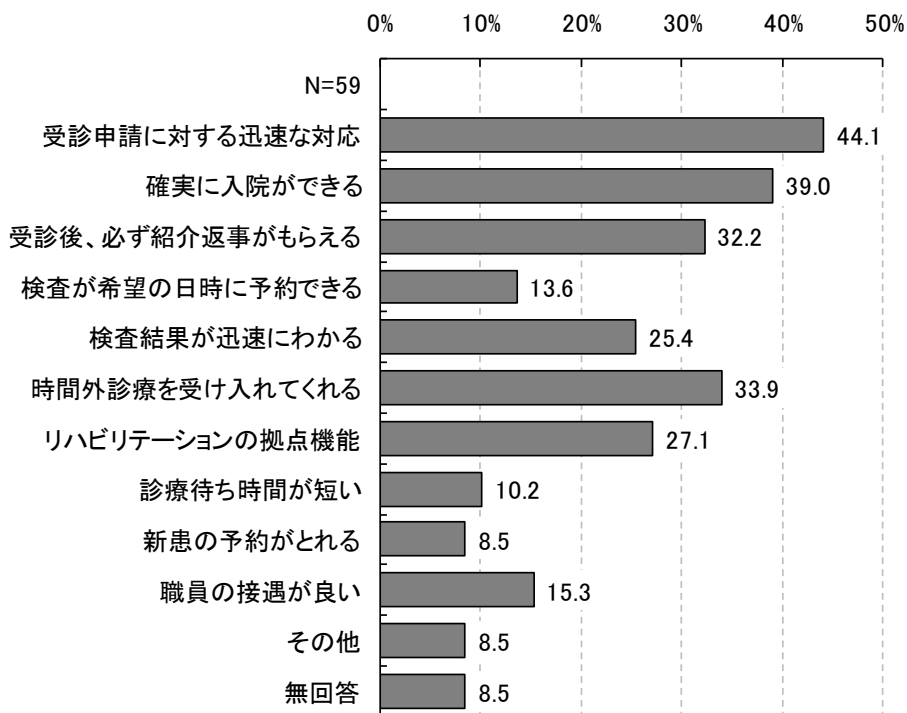
【診療所・病院】：医療連携で区立台東病院を利用して不満だったこと【複数回答】



○診療所・病院が医療連携で区立台東病院に期待すること

診療所・病院が区立台東病院を医療連携で利用して期待することについては、「受診申請に対する迅速な対応」が44.1%と最も多く、次いで「確実に入院ができる」が39.0%、「時間外診療を受け入れてくれる」が33.9%であった。〈図表 3-9〉

〈図表 3-9〉 【診療所・病院】：医療連携で区立台東病院に期待すること【複数回答】

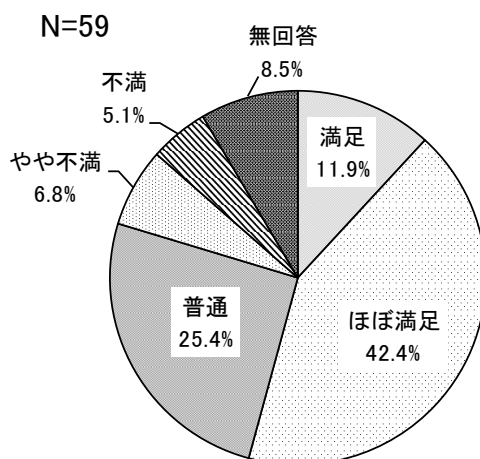


○診療所・病院が医療連携で区立台東病院を利用した満足度

診療所・病院が区立台東病院を医療連携で利用した満足度については、「ほぼ満足」が42.4%と最も多く、次いで「普通」が25.4%、「満足」が11.9%であった。

〈図表 3-10〉

〈図表 3-10〉 【診療所・病院】：医療連携で区立台東病院を利用した満足度

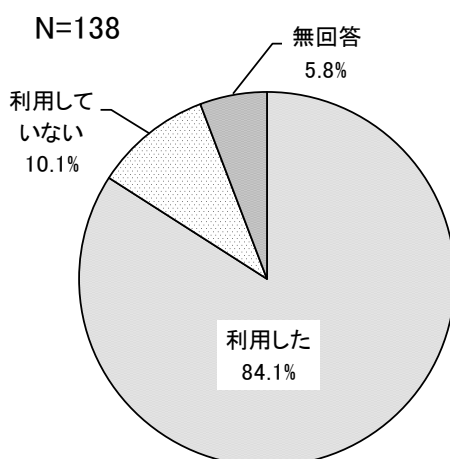


(ウ) 中核病院（永寿総合病院）について

○診療所・病院における医療連携での中核病院の利用状況

医療連携での中核病院（永寿総合病院）の利用については、「利用した」が84.1%、「利用していない」が10.1%であった。〈図表 3-11〉

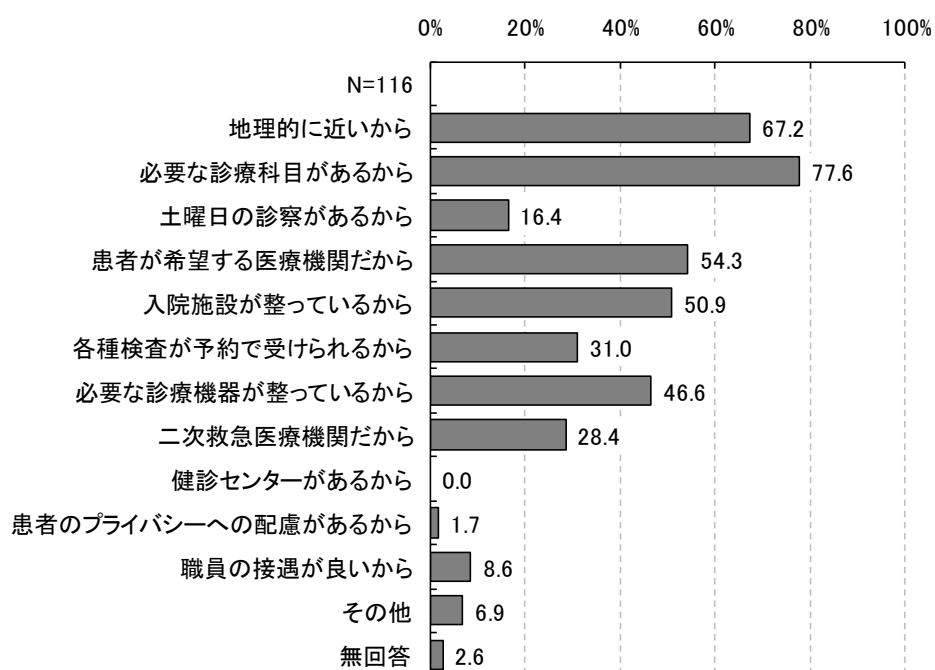
〈図表 3-11〉 【診療所・病院】：医療連携での中核病院の利用状況



○診療所・病院が医療連携で中核病院を利用した理由

診療所・病院が中核病院（永寿総合病院）を医療連携で利用した理由については、「必要な診療科目があるから」が77.6%と最も多く、次いで「地理的に近いから」が67.2%、「患者が希望する医療機関だから」が54.3%であった。〈図表 3-12〉

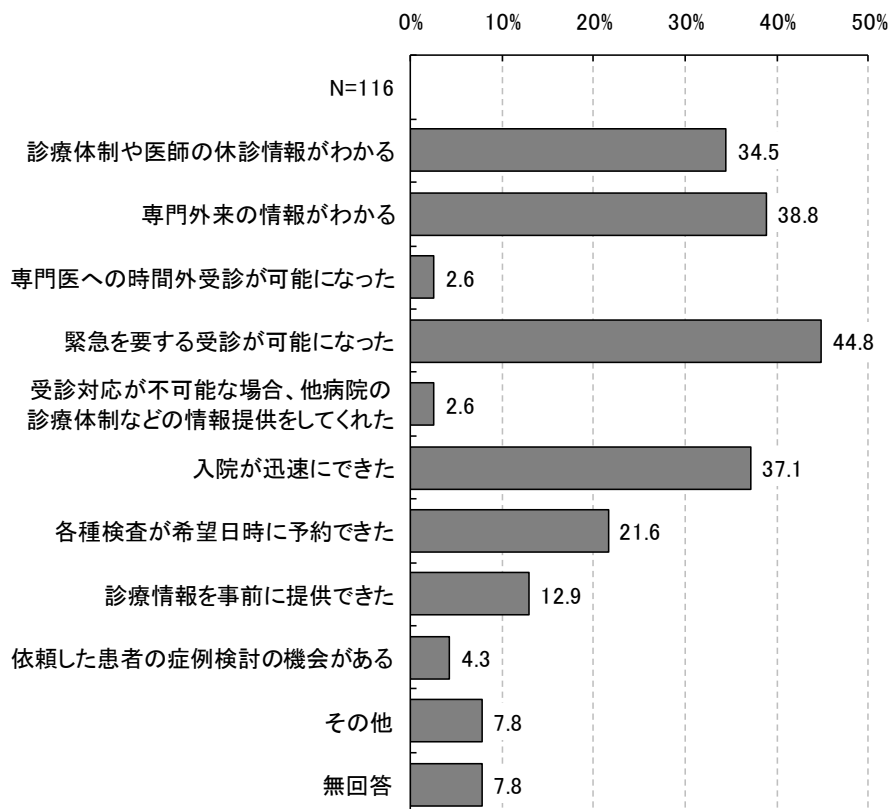
〈図表 3-12〉 【診療所・病院】：医療連携で中核病院を利用した理由【複数回答】



○診療所・病院が医療連携で中核病院を利用して良かったこと

診療所・病院が中核病院（永寿総合病院）を医療連携で利用して良かったことについては、「緊急を要する受診が可能になった」が44.8%と最も多く、次いで「専門外来の情報がわかる」が38.8%、「入院が迅速にできた」が37.1%であった。〈図表 3-13〉

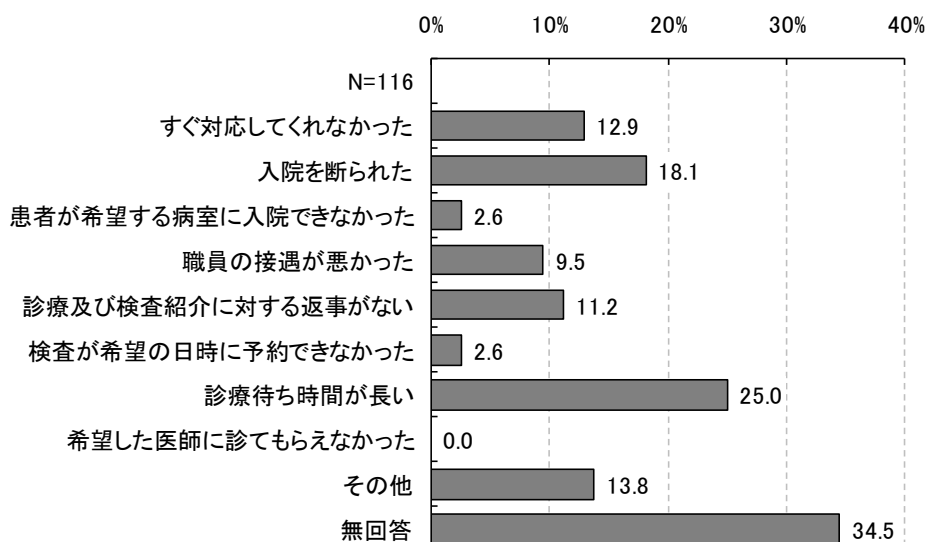
〈図表 3-13〉 【診療所・病院】：医療連携で中核病院を利用して良かったこと【複数回答】



○診療所・病院が医療連携で中核病院を利用して不満だったこと

診療所・病院が中核病院（永寿総合病院）を医療連携で利用して不満だったことについては、「診療待ち時間が長い」が25.0%と最も多く、次いで「入院を断られた」が18.1%、「すぐ対応してくれなかった」が12.9%であった。〈図表 3-14〉

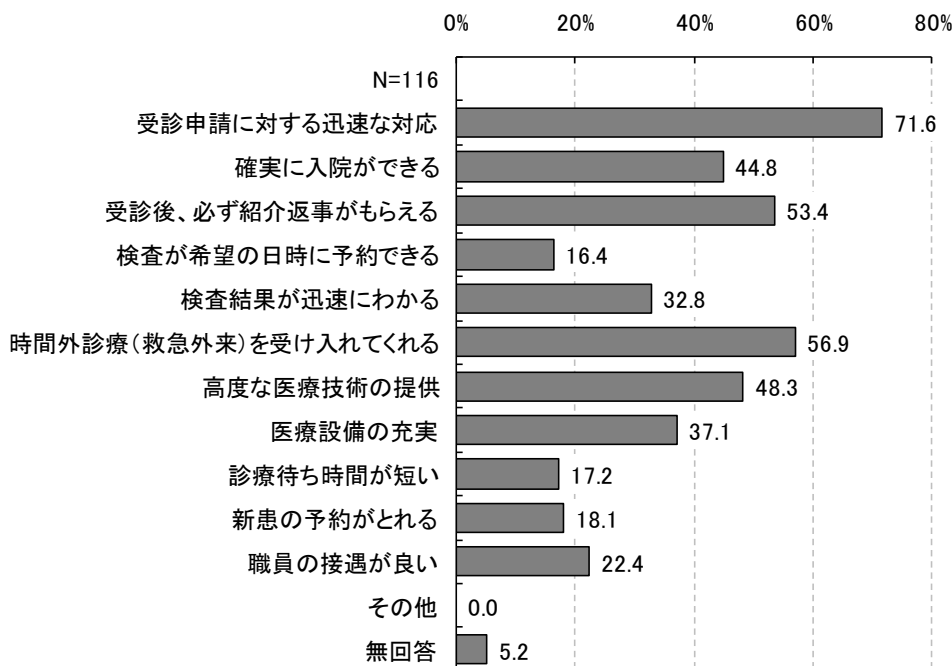
〈図表 3-14〉 【診療所・病院】：医療連携で中核病院を利用して不満だったこと【複数回答】



○診療所・病院が医療連携で中核病院に期待すること

診療所・病院が中核病院（永寿総合病院）を医療連携で利用して期待することについては、「受診申請に対する迅速な対応」が71.6%と最も多く、次いで「時間外診療（救急外来）を受け入れてくれる」が56.9%、「受診後、必ず紹介返事がもらえる」が53.4%であった。〈図表 3-15〉

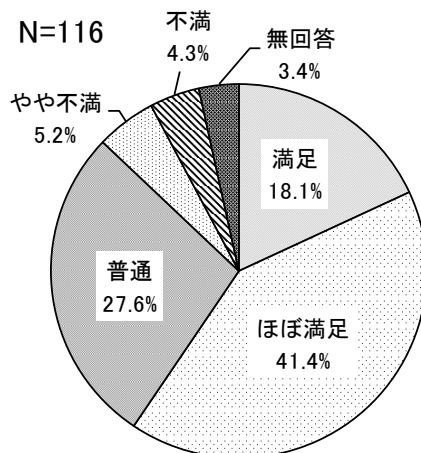
〈図表 3-15〉 【診療所・病院】：医療連携で中核病院に期待すること【複数回答】



○診療所・病院が医療連携で中核病院を利用した満足度

診療所・病院が中核病院（永寿総合病院）を医療連携で利用した満足度については、「ほぼ満足」が41.4%と最も多く、次いで「普通」が27.6%、「満足」が18.1%であった。〈図表 3-16〉

〈図表 3-16〉 【診療所・病院】：医療連携で中核病院を利用した満足度



(工) 病病連携について

○病院における病病連携の利用状況

病院が医療連携（病病連携）として利用した病院については、「永寿総合病院」が5件と最も多く、次いで「上野病院」と「浅草寺病院」、「区立台東病院」が4件であった。

<図表 3-17>

<図表 3-17> 【病院】：病病連携の利用状況【複数回答】

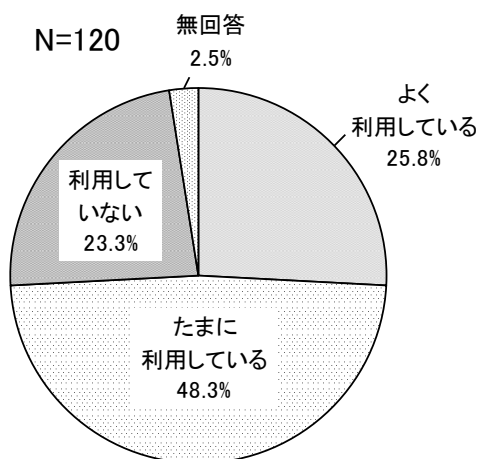
選択肢	件数
永寿総合病院	5
上野病院	4
浅草寺病院	4
区立台東病院	4
浅草病院	3
土田病院	3
同善病院	3
永寿総合病院柳橋分院	2
その他（区外の病院など）	4
ない	1
無回答	0
全体	33

(オ) 診診連携について

○ 診療所における診診連携の利用状況

診療所における他の診療所との医療連携（診診連携）の利用については、「たまに利用している」が48.3%と最も多く、次いで「よく利用している」が25.8%、「利用していない」が23.3%であった。〈図表 3-18〉

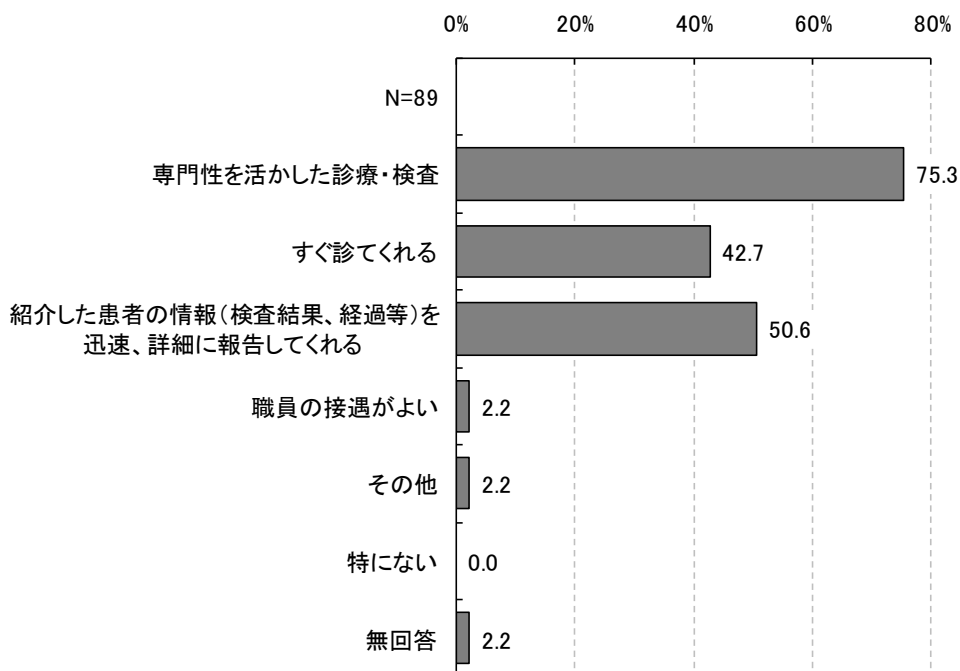
〈図表 3-18〉 【診療所】：診診連携の利用状況



○ 診療所が診診連携に期待すること

診診連携を利用する際に期待することについては、「専門性を活かした診療・検査」が75.3%と最も多く、次いで「紹介した患者の情報（検査結果、経過等）を迅速、詳細に報告してくれる」が50.6%、「すぐ診てくれる」が42.7%であった。〈図表 3-19〉

〈図表 3-19〉 【診療所】：診診連携に期待すること【回答は2つまで】

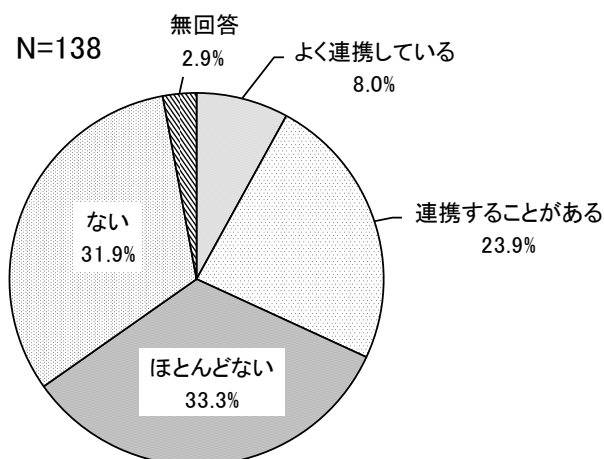


(2) 歯科医療連携と口腔ケアの現状

○診療所・病院におけるかかりつけ歯科医との連携

「かかりつけ歯科医」との連携については、「ほとんどない」が 33.3%と最も多く、次いで「ない」が 31.9%、「連携することがある」が 23.9%であった。〈図表 3-20〉

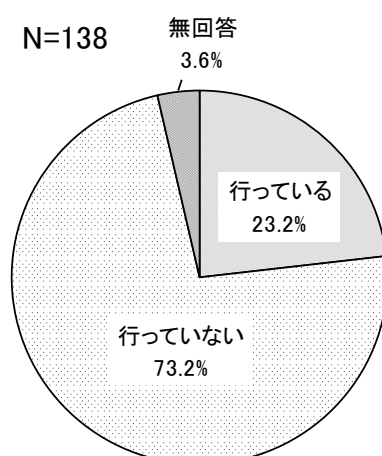
〈図表 3-20〉 【診療所・病院】：かかりつけ歯科医との連携状況



○診療所・病院における摂食嚥下や嚥下障害に関する治療や指導の状況

摂食嚥下や嚥下障害に関する治療や指導の実施については、「行っている」が 23.2%、「行っていない」が 73.2%であった。〈図表 3-21〉

〈図表 3-21〉 【診療所・病院】：摂食嚥下や嚥下障害に関する治療や指導の状況

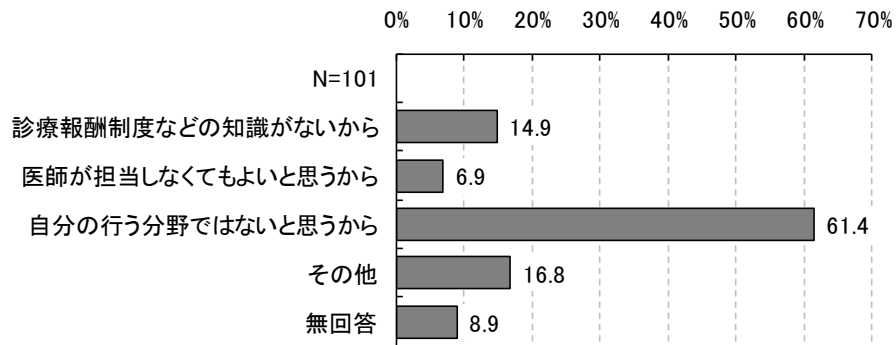


○診療所・病院における摂食嚥下や嚥下障害に関する治療や指導を行わない理由

摂食嚥下や嚥下障害に関する治療や指導を実施していない理由については、「自分の行う分野ではないと思うから」が 61.4%と最も多く、次いで「診療報酬制度などの知識がないから」が 14.9%、「医師が担当しなくてもよいと思うから」が 6.9%であった。
 <図表 3-22>

<図表 3-22>

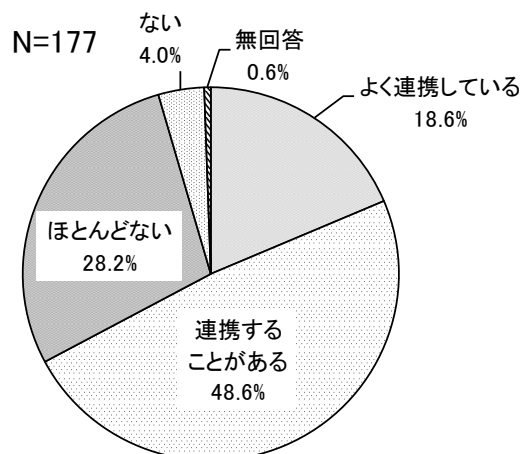
【診療所・病院】：摂食嚥下や嚥下障害に関する治療や指導を行わない理由【複数回答】



○歯科診療所におけるかかりつけ医との連携

患者の「かかりつけ医」との連携の頻度については、「連携することがある」が 48.6%と最も多く、次いで「ほとんどない」が 28.2%、「よく連携している」が 18.6%であった。
 <図表 3-23>

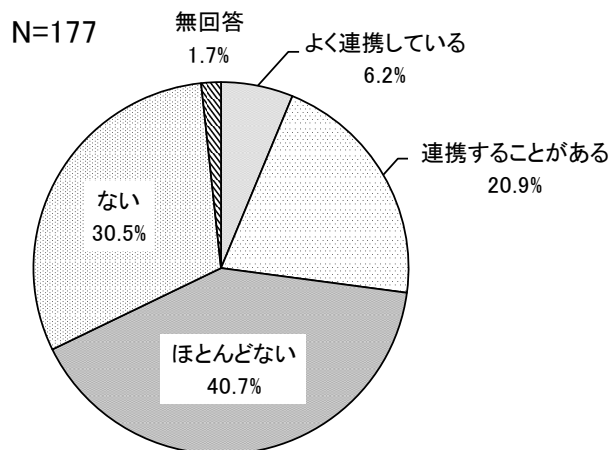
<図表 3-23> 【歯科診療所】：かかりつけ医との連携状況



○歯科診療所におけるケアマネジャーや入所施設相談員などとの連携の状況

ケアマネジャーや入所施設相談員などとの連携の頻度については、「ほとんどない」が40.7%と最も多く、次いで「ない」が30.5%、「連携することがある」が20.9%であった。〈図表 3-24〉

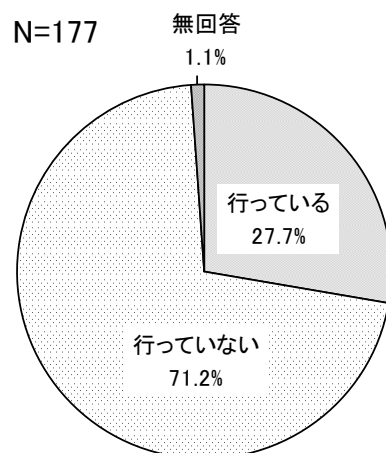
〈図表 3-24〉 【歯科診療所】：ケアマネジャーや入所施設相談員などとの連携の状況



○歯科診療所における摂食嚥下や嚥下障害に関する治療や指導の状況

摂食嚥下や嚥下障害に関する治療や指導については、「行っていない」が71.2%、「行っている」が27.7%であった。〈図表 3-25〉

〈図表 3-25〉 【歯科診療所】：摂食嚥下や嚥下障害に関する治療や指導の状況



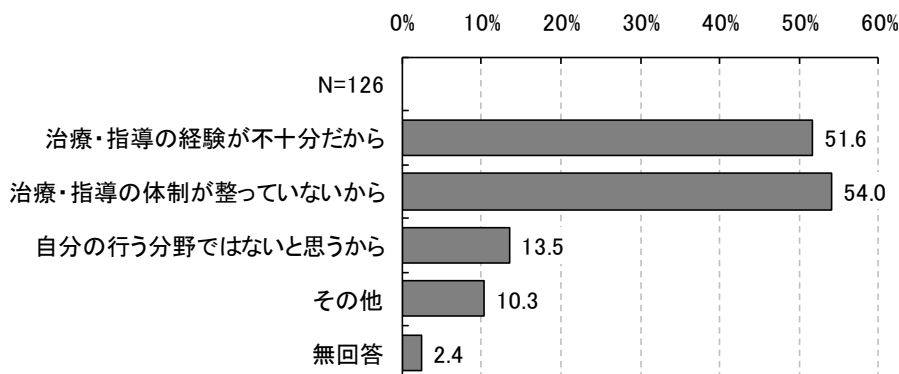
○歯科診療所における摂食嚥下や嚥下障害に関する治療や指導を行わない理由

摂食嚥下や嚥下障害に関する治療や指導を実施していない理由については、「治療・指導の体制が整っていないから」が 54.0%と最も多く、次いで「治療・指導の経験が不十分だから」が 51.6%、「自分の行う分野ではないと思うから」が 13.5%であった。

<図表 3-26>

<図表 3-26>

【歯科診療所】：摂食嚥下や嚥下障害に関する治療や指導を行わない理由【複数回答】

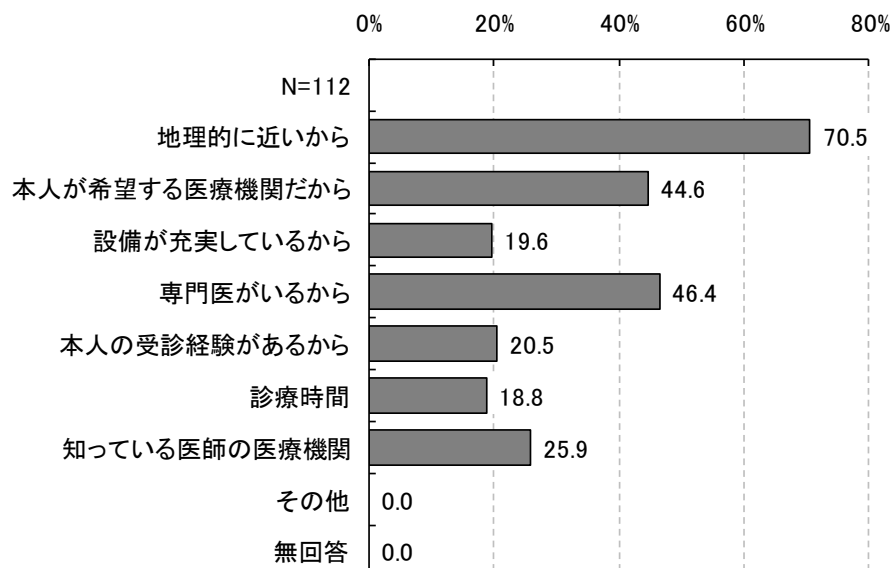


(3) 薬局における医療機関の受診勧奨

○薬局における受診勧奨する際の医療機関の選択基準

薬局で受診勧奨する際の医療機関の選択理由については、「地理的に近いから」が 70.5%と最も多く、次いで「専門医がいるから」が 46.4%、「本人が希望する医療機関だから」が 44.6%であった。<図表 3-27>

<図表 3-27> 【薬局】：受診勧奨する際の医療機関の選択基準【回答は3つまで】



4 区の医療に関する事業への評価と対策

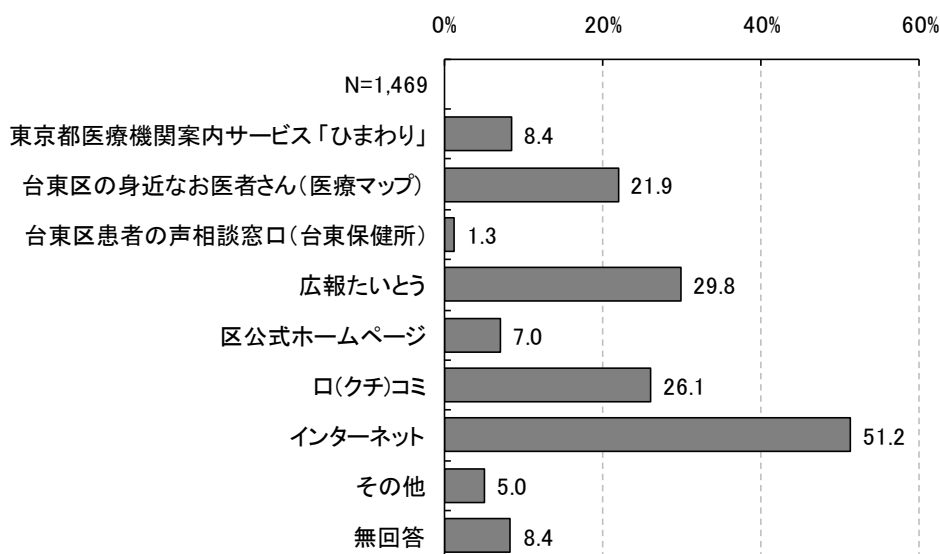
(1) 区民の台東区の医療機関に関する情報の入手方法

○医療機関情報の入手方法

医療機関情報の入手方法については、「インターネット」が51.2%と最も多く、次いで「広報たいとう」が29.8%、「口（クチ）コミ」が26.1%であった。〈図表4-1〉

性別・年代別でみると、男性の64歳以下、女性の59歳以下で「インターネット」が多くなっている。男女とも65歳以上では「広報たいとう」「台東区の身近なお医者さん（医療マップ）」などの紙媒体が多くなっている。〈図表4-2〉

〈図表4-1〉【区民】：医療機関情報の入手方法【複数回答】



〈図表4-2〉【区民】：医療機関情報の入手方法（性別・年代別）

(%)

		合計	東京都医療機関案内サービス「ひまわり」	台東区の身近なお医者さん(医療マップ)	台東区患者の声相談窓口(台東保健所)	広報「たいとう」	区公式ホームページ	口(クチ)コミ	インターネット	その他	無回答
男性	全体 (N=641)	6.7	20.6	1.1	23.4	6.7	22.6	53.5	5.6	8.1	
	20～29歳 (N=47)	2.1	2.1	0.0	6.4	4.3	14.9	87.2	4.3	4.3	
	30～39歳 (N=90)	3.3	5.6	1.1	10.0	5.6	16.7	84.4	2.2	6.7	
	40～49歳 (N=110)	7.3	10.9	0.0	20.0	13.6	22.7	77.3	4.5	1.8	
	50～59歳 (N=97)	6.2	17.5	1.0	23.7	10.3	24.7	67.0	6.2	2.1	
	60～64歳 (N=42)	7.1	23.8	2.4	21.4	9.5	33.3	42.9	9.5	11.9	
	65～74歳 (N=163)	8.6	33.7	1.2	33.7	3.7	19.0	29.4	6.7	10.4	
	75～84歳 (N=82)	9.8	32.9	2.4	30.5	1.2	34.1	12.2	7.3	18.3	
	85歳以上 (N=10)	0.0	50.0	0.0	40.0	0.0	10.0	0.0	0.0	30.0	
女性	全体 (N=815)	9.6	22.8	1.3	35.0	7.4	28.8	49.9	4.7	8.2	
	20～29歳 (N=54)	7.4	11.1	0.0	9.3	13.0	37.0	81.5	1.9	3.7	
	30～39歳 (N=135)	8.9	14.8	1.5	23.0	11.1	25.9	84.4	3.0	3.7	
	40～49歳 (N=148)	10.1	19.6	1.4	32.4	12.8	31.1	73.6	2.7	2.7	
	50～59歳 (N=112)	14.3	17.9	2.7	31.3	14.3	33.0	67.9	6.3	1.8	
	60～64歳 (N=63)	7.9	19.0	0.0	42.9	0.0	36.5	39.7	3.2	7.9	
	65～74歳 (N=150)	8.7	31.3	0.7	49.3	2.0	26.7	19.3	6.7	11.3	
	75～84歳 (N=120)	9.2	35.8	1.7	45.8	0.0	23.3	8.3	5.0	15.8	
	85歳以上 (N=33)	6.1	27.3	3.0	30.3	0.0	18.2	0.0	12.1	39.4	

※性別・年齢の設問で無回答のものを除く

■:1位 ■:2位

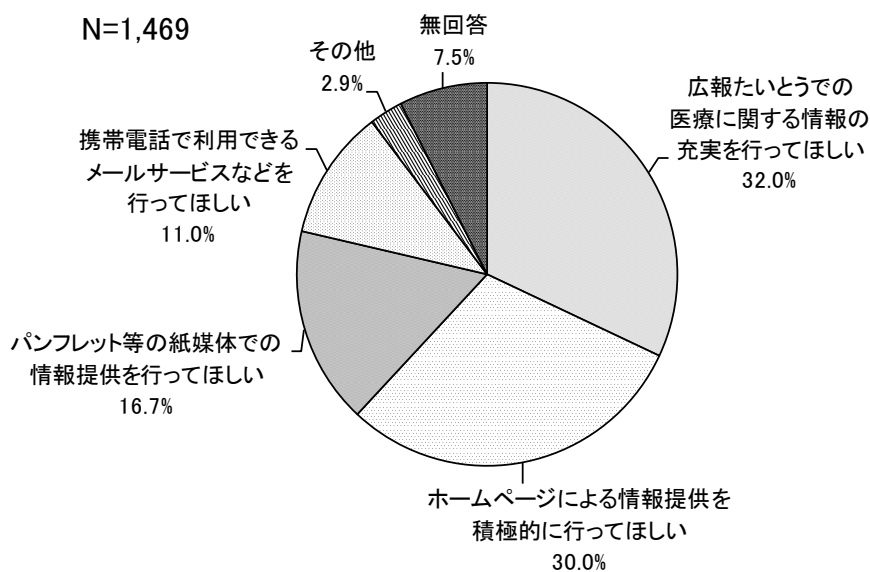
○望ましい広報媒体

医療に関する区の情報提供の方法については、「広報たいとうでの医療に関する情報の充実を行ってほしい」が32.0%と最も多く、次いで「ホームページによる情報提供を積極的に行ってほしい」が30.0%、「パンフレット等の紙媒体での情報提供を行ってほしい」が16.7%であった。〈図表4-3〉

性別・年代別でみると、男女ともに59歳以下で「ホームページによる情報提供を積極的に行ってほしい」が多くなっている。男性の65歳以上、女性の60歳以上では「広報たいとうでの医療に関する情報の充実を行ってほしい」が多くなっている。

〈図表4-4〉

〈図表4-3〉【区民】：望ましい広報媒体



〈図表4-4〉【区民】：望ましい広報媒体（性別・年代別） (%)

		合計	ホームページによる情報提供を積極的に行ってほしい	携帯電話で利用できるメールサービスなどを行ってほしい	パンフレット等の紙媒体での情報提供を行ってほしい	広報「たいとう」での医療に関する情報の充実を行ってほしい	その他	無回答
			(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
男性	全体 (N=641)		33.2	10.5	17.9	27.6	3.9	6.9
	20～29歳 (N=47)		55.3	10.6	14.9	4.3	10.6	4.3
	30～39歳 (N=90)		44.4	18.9	13.3	8.9	10.0	4.4
	40～49歳 (N=110)		49.1	9.1	17.3	20.0	3.6	0.9
	50～59歳 (N=97)		46.4	9.3	15.5	24.7	2.1	2.1
	60～64歳 (N=42)		16.7	16.7	33.3	19.0	2.4	11.9
	65～74歳 (N=163)		20.2	8.0	17.8	42.9	1.2	9.8
	75～84歳 (N=82)		9.8	6.1	19.5	48.8	2.4	13.4
85歳以上 (N=10)		0.0	10.0	30.0	30.0	0.0	30.0	
女性	全体 (N=815)		27.7	11.3	15.8	35.3	2.1	7.7
	20～29歳 (N=54)		59.3	16.7	11.1	7.4	1.9	3.7
	30～39歳 (N=135)		49.6	17.8	11.1	14.8	3.7	3.0
	40～49歳 (N=148)		38.5	15.5	15.5	27.0	2.0	1.4
	50～59歳 (N=112)		36.6	15.2	10.7	33.0	1.8	2.7
	60～64歳 (N=63)		20.6	6.3	15.9	52.4	0.0	4.8
	65～74歳 (N=150)		6.7	4.7	23.3	50.7	2.0	12.7
	75～84歳 (N=120)		5.0	5.8	18.3	54.2	1.7	15.0
85歳以上 (N=33)		0.0	3.0	18.2	39.4	3.0	36.4	

※性別・年齢の設問で無回答のものを除く

■：1位 ■：2位

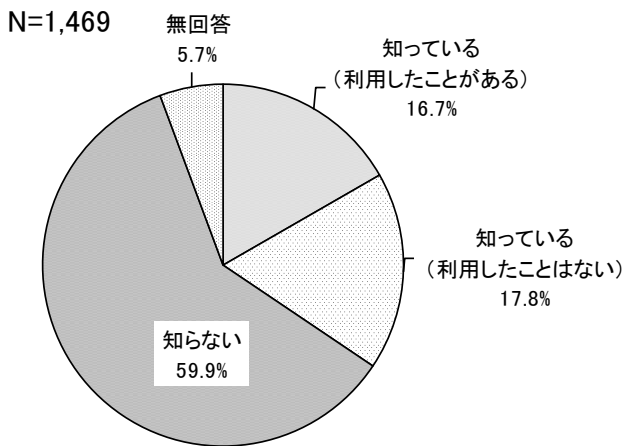
(2) 台東区の医療に関する取り組みの認知度

○「台東区準夜間・休日子どもクリニック」の認知度

「台東区準夜間・休日子どもクリニック」については、「知らない」が59.9%と最も多く、次いで「知っている（利用したことはない）」が17.8%、「知っている（利用したことがある）」が16.7%であった。〈図表 4-5〉

性別・年代別でみると、男性の30～64歳、女性の30～59歳で「知っている（利用したことがある）」が他の年代に比べて多くなっている。〈図表 4-6〉

〈図表 4-5〉【区民】：「台東区準夜間・休日子どもクリニック」の認知度



〈図表 4-6〉【区民】：「台東区準夜間・休日子どもクリニック」の認知度（性別・年代別） (%)

		合計	知っている (利用したことがある)	知っている (利用したことはない)	知らない	無回答
男性	全体 (N=641)		11.7	14.7	68.3	5.3
	20～29歳 (N=47)		4.3	12.8	80.9	2.1
	30～39歳 (N=90)		15.6	10.0	74.4	0.0
	40～49歳 (N=110)		23.6	12.7	63.6	0.0
	50～59歳 (N=97)		15.5	14.4	69.1	1.0
	60～64歳 (N=42)		14.3	9.5	76.2	0.0
	65～74歳 (N=163)		6.1	22.1	65.6	6.1
	75～84歳 (N=82)		2.4	9.8	62.2	25.6
	85歳以上 (N=10)		0.0	30.0	60.0	10.0
女性	全体 (N=815)		20.7	20.5	53.4	5.4
	20～29歳 (N=54)		9.3	16.7	72.2	1.9
	30～39歳 (N=135)		25.2	14.8	60.0	0.0
	40～49歳 (N=148)		39.2	16.2	44.6	0.0
	50～59歳 (N=112)		33.9	19.6	46.4	0.0
	60～64歳 (N=63)		11.1	23.8	60.3	4.8
	65～74歳 (N=150)		11.3	38.0	42.7	8.0
	75～84歳 (N=120)		8.3	15.0	61.7	15.0
	85歳以上 (N=33)		0.0	6.1	63.6	30.3

※性別・年齢の設定で無回答のものを除く

■:1位 □:2位

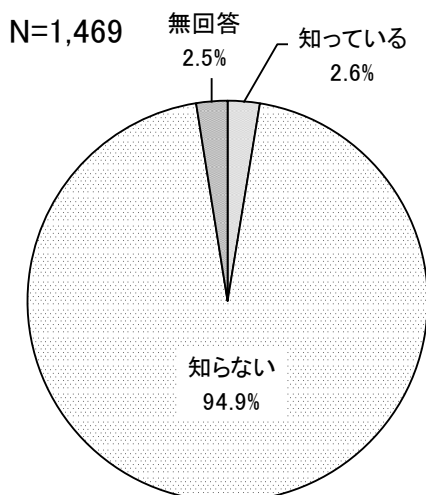
○三ノ輪口腔ケアセンターの認知度

区民における三ノ輪口腔ケアセンターの認知度は、2.6%であった。〈図表 4-7〉

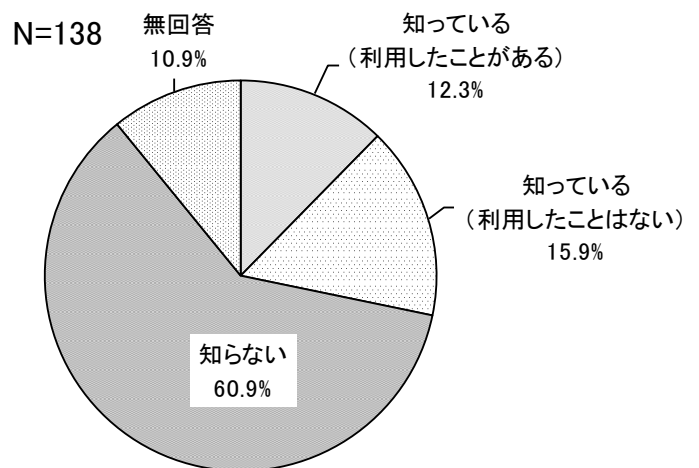
診療所・病院における三ノ輪口腔ケアセンターの認知度は、28.2%であった。

〈図表 4-8〉

〈図表 4-7〉【区民】：三ノ輪口腔ケアセンターの認知度



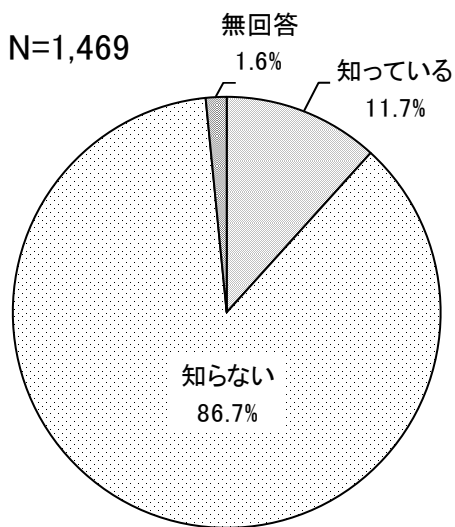
〈図表 4-8〉【診療所・病院】：三ノ輪口腔ケアセンターの認知度



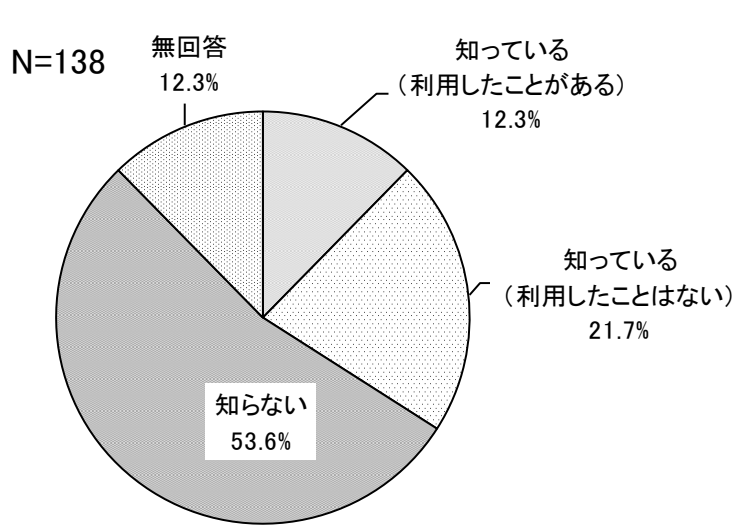
○在宅療養支援窓口の認知度

区民における在宅療養支援窓口の認知度は、11.7%であった。〈図表 4-9〉
 診療所・病院における在宅療養支援窓口の認知度は、34.0%であった。〈図表 4-10〉
 歯科診療所における在宅療養支援窓口の認知度は、33.9%であった。〈図表 4-11〉
 薬局における在宅療養支援窓口の認知度は、49.1%であった。〈図表 4-12〉

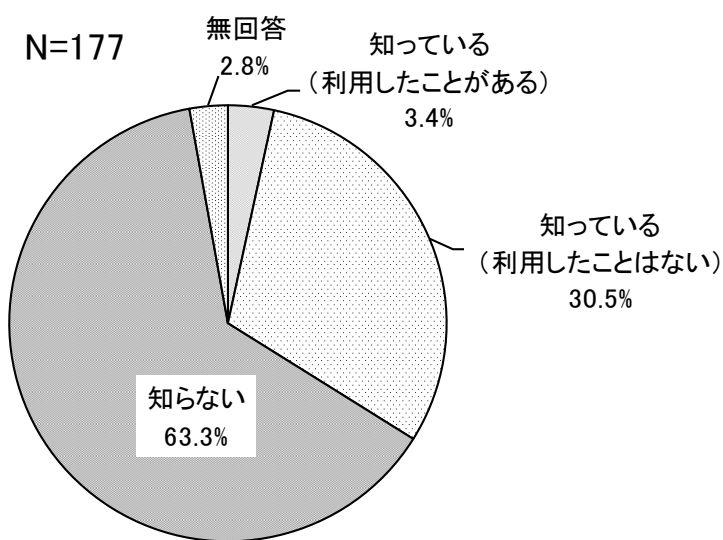
〈図表 4-9〉
 【区民】：在宅療養支援窓口の認知度



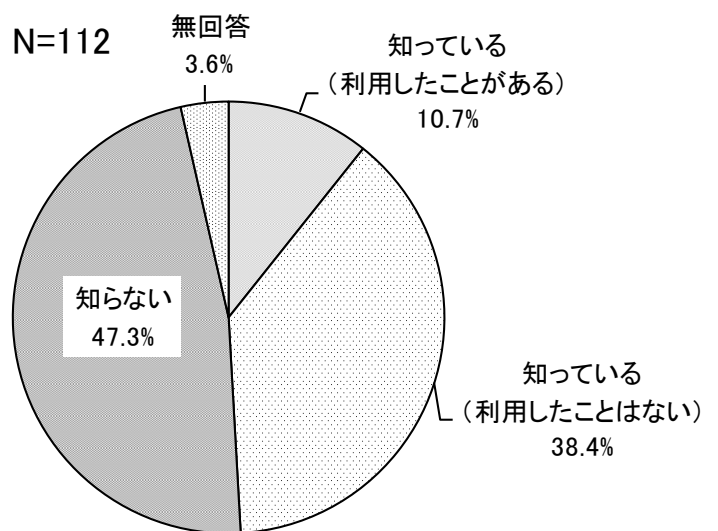
〈図表 4-10〉
 【診療所・病院】：在宅療養支援窓口の認知度



〈図表 4-11〉
 【歯科診療所】：在宅療養支援窓口の認知度



〈図表 4-12〉
 【薬局】：在宅療養支援窓口の認知度

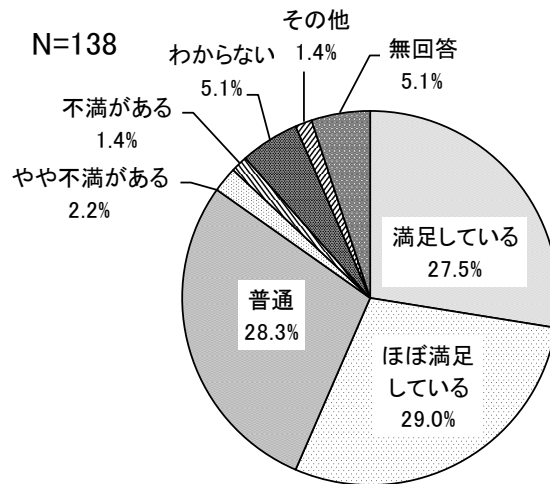


(3) 台東区の医療に関する取り組みへの評価と要望

○診療所・病院における区の医療に関する取り組みへの評価

区が実施する医療に関する事業への評価については、「ほぼ満足している」が29.0%と最も多く、次いで「普通」が28.3%、「満足している」が27.5%であった。
 <図表 4-13>

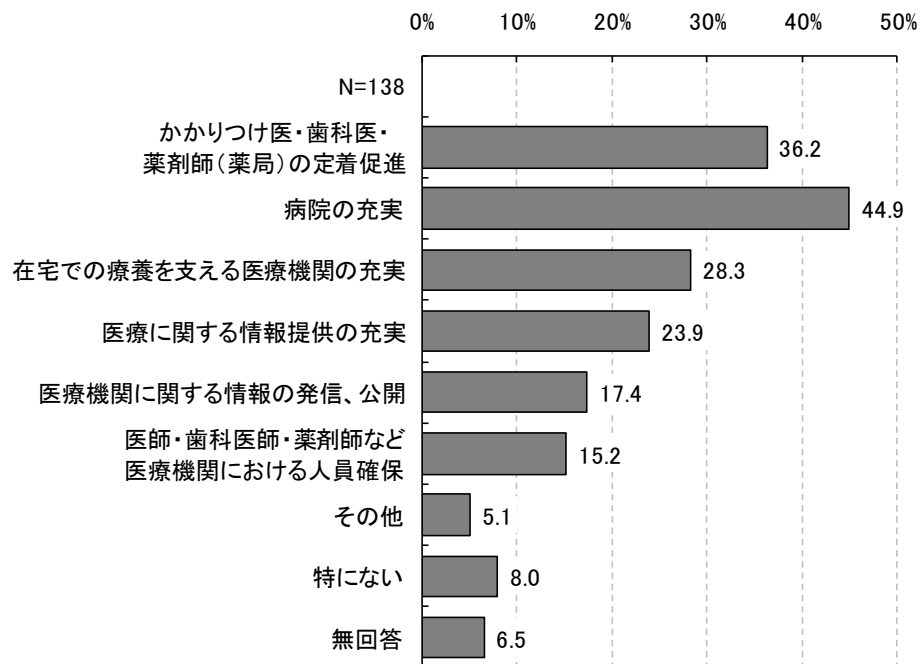
<図表 4-13> 【診療所・病院】：台東区の医療に関する取り組みへの評価



○診療所・病院における区の医療を充実させるために必要なこと

区内の医療を充実させるために必要なことについては、「病院の充実」が44.9%と最も多く、次いで「かかりつけ医・歯科医・薬剤師（薬局）の定着促進」が36.2%、「在宅での療養を支える医療機関の充実」が28.3%であった。<図表 4-14>

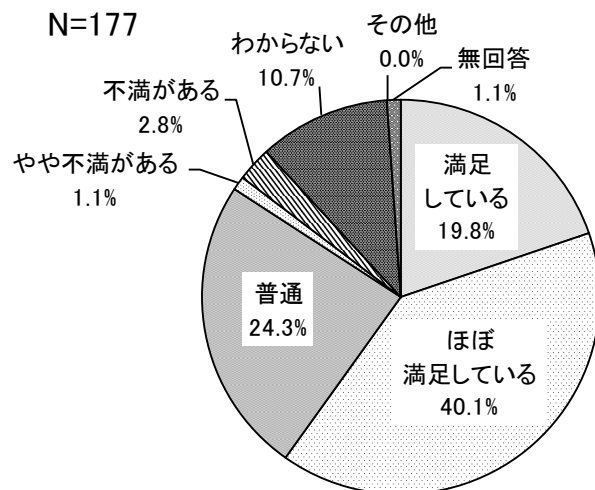
<図表 4-14> 【診療所・病院】：台東区の医療を充実させるために必要なこと
 【回答は3つまで】



○歯科診療所における区の医療に関する取り組みへの評価

区が実施する医療に関する事業への評価については、「ほぼ満足している」が 40.1%と最も多く、次いで「普通」が 24.3%、「満足している」が 19.8%であった。
 <図表 4-15>

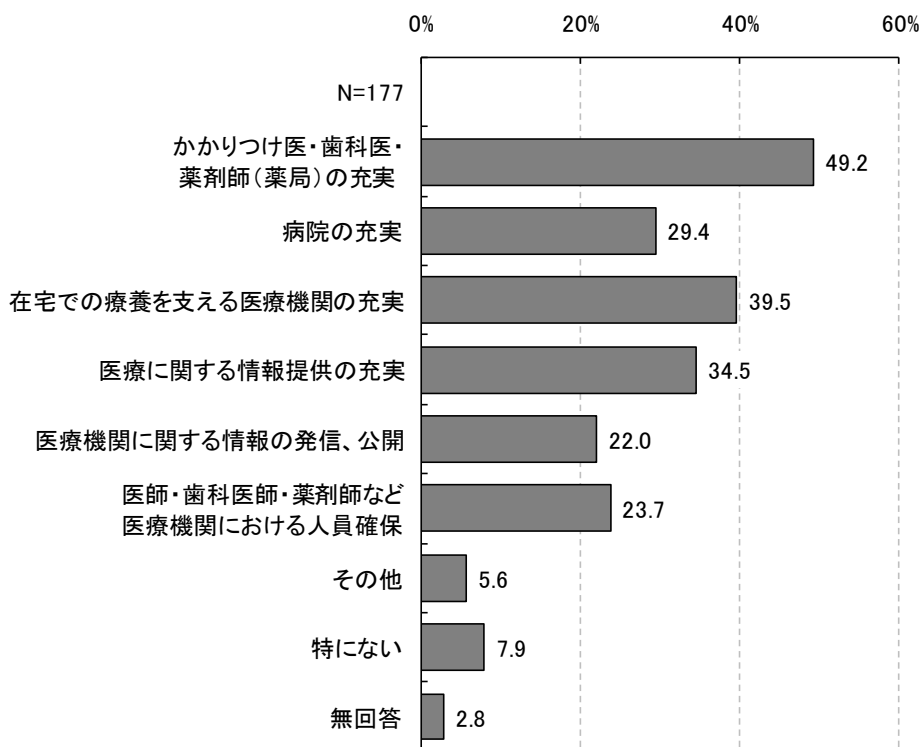
<図表 4-15> 【歯科診療所】：台東区の医療に関する取り組みへの評価



○歯科診療所における区の医療を充実させるために必要なこと

区内の医療を充実させるために必要なことについては、「かかりつけ医・歯科医・薬剤師（薬局）の充実」が 49.2%と最も多く、次いで「在宅での療養を支える医療機関の充実」が 39.5%、「医療に関する情報提供の充実」が 34.5%であった。<図表 4-16>

<図表 4-16> 【歯科診療所】：台東区の医療を充実させるために必要なこと
 【回答は3つまで】

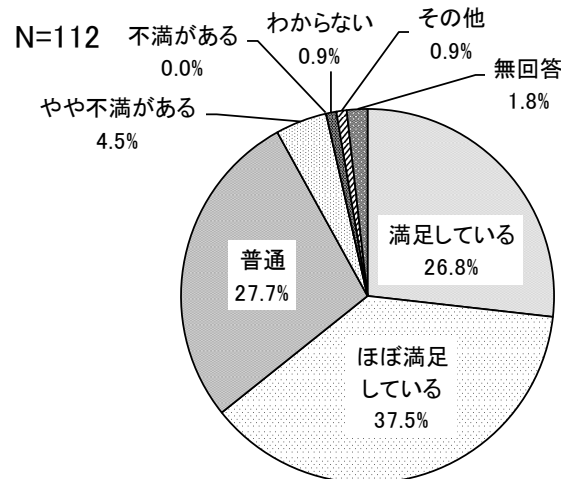


○薬局における区の医療に関する取り組みへの評価

区が実施する医療に関する事業への評価については、「ほぼ満足している」が37.5%と最も多く、次いで「普通」が27.7%、「満足している」が26.8%であった。

<図表 4-17>

<図表 4-17> 【薬局】：台東区の医療に関する取り組みへの評価

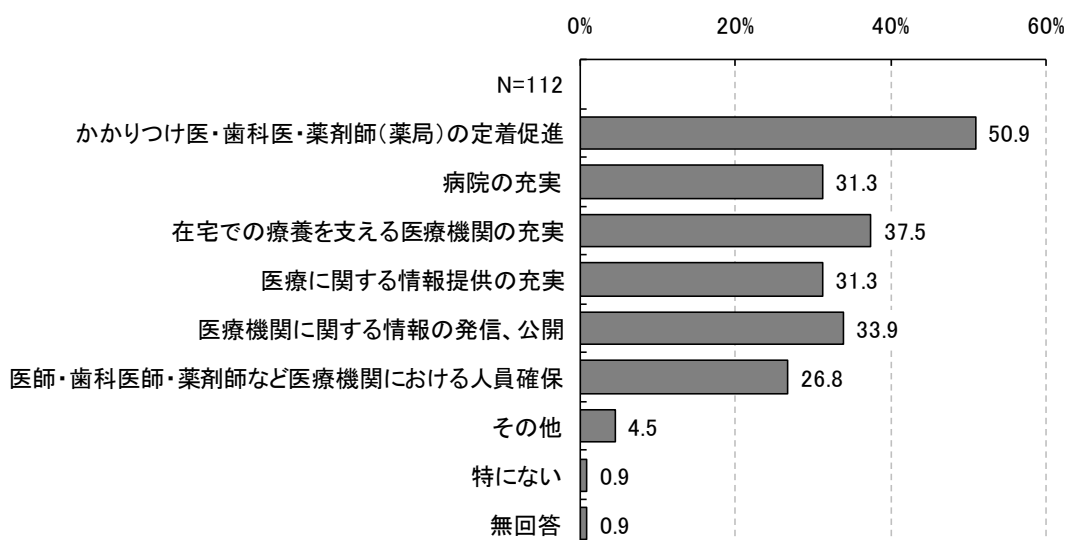


○薬局における区の医療を充実させるために必要なこと

区内の医療を充実させるために必要なことについては、「かかりつけ医・歯科医・薬剤師（薬局）の定着促進」が50.9%と最も多く、次いで「在宅での療養を支える医療機関の充実」が37.5%、「医療機関に関する情報の発信、公開」が33.9%であった。

<図表 4-18>

<図表 4-18> 【薬局】：台東区の医療を充実させるために必要なこと【回答は3つまで】



医療機関からの台東区の医療に関する取り組みへの評価は高かったが、不満があるとの回答も寄せられている。

また、満足と回答している医療機関でも、何らかの要望があるとも考えられる。そこで、医療機関には、それぞれの立場から、区への要望を自由に記述していただいた。

下記は、その記述していただいた内容を抜粋したものである。

○診療所・病院から区への要望（主な記載内容）

- 今までの対応で十分と思う。
- せっかく区立の台東病院をつくったのに機能していないのは不満。2次救急とまでいかなくてもせめて夜間、休日の在宅医療の後方支援病院であってほしい。
- 台東区民のために、今後も医療の向上につながるよう検討頂きたい。

○歯科診療所から区への要望（主な記載内容）

- 経験が一番在宅や施設での診療に役立つとっております。若い先生にも積極的に訪問診療を経験してもらえれば、未来につながると思います。
- 訪問先患者宅前の駐車場の許可を。罰則をなくしていただきたい。
- 自分自身もこれからは要望あれば在宅に携わっていきたいとっております。自分の所に来院されていた人が来られなくなってきているケースが最近特に多いので、これからは色々知識を取り入れてやっていきたいといたします。

○薬局から区への要望（主な記載内容）

- 公共の場所は全面禁煙にしてほしい（路上、飲食店）
- 軽症者は近隣の開業医へもっと誘導した方がいいと思います。なかなか難しいとは思いますが。
- ケアマネジャー、包括支援センター職員にかかりつけ薬剤師の制度の理解を深める仕組みを作ってほしい。

台東区 医療に関する調査 «報告書»
平成 30 年 3 月発行 (平成 29 年度登録第 85 号)

発 行 台東区
編 集 台東区 健康部 健康課
〒110-8615 東京都台東区東上野 4-5-6
電 話 03 (5246) 1111 (代表)

古紙再生紙を使用しています